

法政大學講義録

山崎, 覺次郎 / 田中, 遜 / 谷野, 格 / 中村, 進午 / 鈴木,
英太郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

1-16

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

43

(発行年 / Year)

1904-03-11



(明治三十六年十月十二日 第三種郵便物認可)
每月十四日 十五日 十八日 廿一日 廿五日 廿八日 發行

三十七年度

明治三十七年三月十一日發行

第一學年ノ十六

法政大學講義錄

號八拾四第



法政大學發行

第一學年第十六號目次

法學通論	(至八二)	法學博士 中村 進 午
民法總則	自第四章 (至三五) 至第六章 (至三三)	法學士 鈴木英太郎
刑法總論	(自三〇五) (至三〇五)	法學士 谷野 格
國際公法(平時)	(自二八一) (至二八一)	法學博士 中村 進 午
經濟學	(自三六) (至三六)	法學士 山崎覺次郎
羅馬法	(自五七) (至八〇)	FRONTIERIL 田 中 遜

雜報 ○一罪ト數罪トノ區別ノ標準○露國ノ戰時禁制品

(正誤 前號目次中梅博士ノ分ニ誤植アリ本又標題ヲ正シトス)

090
1904
1-1-16

五 善良ノ風俗完全ナル理性ニ反スヘカラス
 第二說 裁判所認定說或ハ法廷承認說 此說ニ依レハ或慣習ニ關シテ爭ヲ生シ裁判所ノ判決ヲ請ヒタルトキニ當リ裁判所カ此慣習ヲ法律ナリト認定シタル時ニ始メテ慣習ト爲ルヘシト云フナリ英國ノ學者ハ此說ヲ採ル者極メテ多シ「オースチン」「ホルランド」「ベンザム」ノ如キ皆是ナリ殊ニ「ベンザム」ノ如キハ此ノ如キ法律ヲ名ケテ裁判官制定法ト謂フヘシト唱ヘタリ
 第三說 慣習カ永ク繼續スルトキハ法律ト爲ルヘシトノ說 此說ハ所謂永ク繼續スルトノ期間不明ナルカ故ニ竟ニ曖昧ニ陥ルヘシ
 第四說 主權者カ默示ニ慣習ヲ認定セヘ之ニ由リテ法律ト爲ルヘシトノ說 此說ニ依レハ明示ニ認定スレハ或文法ト爲ルヘシト云フナリ然レトモ如何ナル行爲ヲ以テ暗黙ノ認定ト看做スヘキヤ明カナラス例ヘハ裁判官カ該慣習ヲ適用シタル時ニ之ヲ默示ノ認定アリト看ルヘキカ若クハ人民カ其慣習ニ從フコトヲ主權者カ看過シタル時ニ之ヲ暗黙ノ認定ト看ルヘキカ不明ナルヘシ
 第五說 人民カ從來慣習トシテ行ハレタル行爲ヲ法律ナリト確信シテ之ニ從

フニ至リタルトキハ慣習法ト爲ルトノ說 獨逸ノ「サビニ」フ「フター」等ハ此說ヲ採ル此說ヲ採ル者ハ少クトモ或法律カ人民ノ意思ヨリ出ツルモノナリトノ論據ヲ認メサルヘカラス隨テ若シ法律カ人民ノ意思ニ出ツルモノニ非ストスレハ此說ハ當然消滅スヘシ尙ホ此說ニ依レハ人民カ慣習ヲ以テ法律ナリト確信シタル時期ノ如何ヲ決定セサルヘカラス而シテ此時期ヲ決定セシコトハ到底可能ニ非サルヘシ

慣習法モ亦法律ナル以上ハ慣習法カ成文法ト衝突シタル場合ニ其孰レニ重キヲ置クヘキヤノ問題アリ羅馬時代ニ於テハ或學者ハ慣習法ヲ以テ成文法ヲ變更スルノ力アリト爲シタリ然ルニ「コンスタンチン帝」ハ其「コーヂキス」ニ於テ慣習法ヲ以テ成文法ヲ變更スルコトヲ得ストセリ然レトモ慣習法ト成文法トカ同時ニ存在スル場合ニ於テハ當然成文法ニ勝ヲ占メシムヘシトハ近來ニ於テ總テノ國家ノ認ムル所ナリ蓋シ慣習法ハ裁判官ノ定ムル所ニシテ成文法ノ如ク確定シタルモノニ非サレハナリ故ヲ以テ今日ニ於テハ慣習法モ成文法モ共ニ法律ナルヲ以テ全ク對等ノ效力ヲ有スルモノナリトノ說ハ認メラルルコト

ナシ

裁判官ハ自國ノ法律ヲ知ルノ義務アリ是ニ於テ裁判官ハ自國ノ慣習法ヲ知ラサルヘカラサルヤノ問題ヲ生ス獨逸ノ「プフター」ヲ如キハ慣習法モ亦法律ナルカ故ニ慣習法カ裁判上明白ナラサル場合ニ於テハ裁判官ハ職權ヲ以テ慣習法ヲ調査セサルヘカラスト曰ヘリ然ルニ獨逸民事訴訟法第二百六十五條ニハ「裁判官ハ獨立シテ慣習法ヲ調査スルノ權利アレトモ裁判官若シ慣習法ヲ知ラサルトキハ當事者タル者之ヲ證明セサルヘカラスト規定セリ但裁判官ハ當事者ノ證明シタルモノヲ必スシモ慣習法ト看サルヘカラサルノ義務ナレ我輩ハ日本ノ國內法上ノ解釋ヨリ裁判官ハ慣習法ヲ知ラサルヘカラサルモノト思惟ス

第二 學說

學說トハ學者カ法律ニ下シタル法理上ノ見解ナリ法律ニ不明ナル事アルトキハ學者ハ其缺點ヲ補ヒ法律ヲ解釋センカ爲メニ自己ノ見解ヲ下スコト當然ナリ學說カ法律ノ淵源ト爲ルト云フコトハ立法者カ學者ノ見解ヲ參考ニ供スル場合ヲ指スモノナリ然リト雖モ學說其モノハ決シテ學說トシテ直チニ法律ノ

效力ヲ有スルモノニ非ス國家ノ權力ヲ加ヘテ始メテ法律タルノ力ヲ有スルモノナリ例ヘハ羅馬ノ「セオドシキス」第二世カ五大法律家ノ學說ニ法律タルノ效力ヲ與ヘタルカ如ク又羅馬ノ「ヂキスチニヤン」帝カ三十九大法律家ノ學說ヲ集メテ法典ヲ作り之ニ法律タルノ效力ヲ與ヘタルカ如シ然レトモ近世ニ於テハ國家カ學者ノ說ヲ認メテ直チニ法律ト爲シタルノ例ヲ見ス故ニ學說ハ唯間接ニ法律ノ淵源ト爲ルニ過キサレナリ

第三 條理

條理トハ正義正道ト云フコトナリ正義正道トハ如何ナルモノナルヤニ付テ判然タル定義ヲ下スコト能ハス故ニ裁判官カ條理ニ從ヒ又ハ立法者カ條理ニ從フト云フコトハ裁判官又ハ立法者カ自己ノ見解上正義正道ナリト認メタルコトニ從フトコトヲ謂フ羅馬ノ古代ニ於テ萬國共通ノ法律ニ從フヘシト云ヒタルカ如キ我國ノ明治八年ノ布告ニ於テ條理ニ從フヘシト云ヒタルカ如キ英國ニ於テ衡平法ニ依ルヘシト定メタルカ如キ自然法主義ノ國ニ於テ自然法ニ依ルヘシト云フカ如キ皆是ナリ故ニ條理カ法律ノ淵源ト爲ルト云フコトハ立法者

カ之ヲ認メ又ハ裁判官カ之ヲ適用シタル後ニ於テ始メテ生スルモノナリ

第四 條約

條約ハ國家ト國家トノ間ノ契約ニシテ單ニ當事者タル國家ヲ拘束スルニ過キス國家ノ一箇人ハ條約ノ主體ニ非サルカ故ニ條約ヲ遵奉スヘキ義務ヲ負フトナシ然レトモ若シ條約ハ國家ノミヲ拘束スルモノナルカ故ニ國民ハ之ニ從フトコトヲ要セストモ締結國ノ一方ハ締結國ノ他方ニ對シテ到底完全ニ條約上ノ義務ヲ履行スルコト能ハサルヘシ故ニ國家ハ外國ト條約ヲ締結スルト共ニ國內ニ向ヒテハ國家カ此條約ヲ遵奉スヘキコトヲ或形式ニ依リテ命令スルモノナリ但人民カ條約ニ拘束セララルル條約其モノニ拘束セララルルニ非スシテ條約ニ約定シタルト同一ノ事項カ國內ニ向ヒテ遵奉ヲ強ヒラレタルカ故ニ其國家的の命令ニ服從スルモノナリ故ヲ以テ條約ハ最も多クノ場合ニ於テ法律ノ淵源ト爲ルモノナリ

第五 判決例

法律ノ明文ニ從ヒテ國民ノ權利義務ハ明確ナルコトヲ得ルモノナリト雖モ法

律ニ疑アルトキハ裁判官ハ自由ナル判決ヲ與ヘテ之ヲ決定スヘキモノナリ此
 ノ如キ判決カ多ク集リタルトキハ其後ニ於テ制定セラルル法律ノ淵源ト爲ル
 コト極メテ多シ是レ猶ホ條理慣習等カ法律ノ淵源ト爲ルカ如シ裁判官ハ特別
 ノ規定アル場合ノ外ハ必スシモ他ノ裁判所カ前ニ下シタル判決ニ從ハサルヘ
 カラサルノ義務ヲ負フモノニ非ス然レトモ判決例カ法律ノ淵源ト爲リテ法律
 ヲリ認メラレタル場合ニ之ニ從ハサルヘカラサルハ疑ヲ容レス

第六 宗教

法律ヲ以テ神ノ意思ニ外ナラストシタル時代ニ於テハ宗教ト法律トヲ離ル
 カラサルノ關係ヲ有スルノミナラス場合ニ依リテハ之ヲ同一視シタルコトア
 リ例ヘハ「モゼス」法典「メニユ」法典「マホメット」法典ノ如キ皆然リ近世ニ於
 テハ宗教ト法律トヲ分離シタリト雖モ法律カ宗教ノ感化ヲ受ケ宗教カ法律ノ
 淵源ト爲リタルモノ極メテ多シ例ヘハ我國ノ家督相續ノ規定ノ如キハ祖先教
 ノ影響ヲ受ケタルモノナリ又西班牙奧太利等ノ法律ニ於テ離婚ヲ禁スルノ理
 由ハ等シク宗教ヲ淵源トシタルモノナリ蓋シ婚姻ハ神ノ結合シタルモノナル

カ故ニ人ノ意思又ハ人ノ力ヲ以テ之ヲ解クヘカラスト云フナリ

第七 外國法

各國ノ交通頻繁ナルニ隨ヒ外國法ノ長所ヲ採リテ自國法ノ短ヲ補フコトハ何
 レノ國家ト雖モ甘シテ爲ス所ナリ外國法カ自國法ト爲ルト云フコトハ外國法
 其レ自身カ直チニ自國ニ於テ法律タルノ效力ヲ有スト云フコトニ非ス外國法
 ニ規定スル所ヲ内國ノ國家カ採用シテ自國ノ主權ノ力ニ依リテ自國法律タル
 ノ效力ヲ與ヘ茲ニ始メテ自國ノ法律ト爲ルモノナリ故ニ外國法ハ内國法ノ淵
 源ト爲ルコト極メテ多シ此點ニ付テハ前章ニ述ヘタル固有法及ヒ繼承法ヲ參
 照スヘシ

第九章 法律ノ制裁

法律ノ制裁トハ或行爲ニ對シテ法律カ加フル所ノ惡報ナリ故ニ善報ハ之ヲ制
 裁ト曰ハス法律ニ制裁ヲ加フル所以ハ法律ノ執行ヲ安全ニセンカ爲メナリ然
 レトモ法律ハ制裁アルカ故ニ行ハルルモノナリト考フルハ誤解ナリ制裁アル

法律ト雖モ或行爲ヲ爲シタル者カ事實上其法律ニ服從スルコトヲ免レ又制裁ヲ脱スルコトアリ制裁ナキ法律ト雖モ僞人ノ之ニ服從スルコト極メテ多シ法律ノ制裁ヲ大別スレハ公法上ノ制裁ト私法上ノ制裁トノ二種ト爲スコトヲ得公法上ノ制裁ノ最モ多クハ刑事上ノ制裁ニシテ私法上ノ制裁ノ最モ多クハ民事上ノ制裁ナリ

第一 公法上ノ制裁

(一) 死刑 死刑トハ人ノ生命ヲ斷ツコトヲ謂フ死刑ノ目的ハ主トシテ將來ニ於テ斯ル暴惡者カ國家ノ秩序ヲ害スルコトヲ妨クルニ在リ死刑ノ方法ハ殘酷ナラザランコトヲ要ス何トナレハ死刑ノ目的カ犯罪者ヲ社會ヨリ遠クルコト即チ殺戮スルニ在リテ犯罪者ニ苦痛ヲ與フルニ在ラサレハナリ古ニ於テハ磔刑火炙、鋸引、釜煎、車裂等ノ殘酷ナル方法アリタリト雖モ今日ニ於テハ絞殺、斷首、銃殺、電氣殺等最モ盛ニ行ハル死後ニ於テ屍體ヲ辱シムルノ刑罰例ハハ鼻首ノ如キハ今日ニ於テ刑罰ノ目的上不必要ナルカ故ニ文明國ニ於テハ之ヲ採用セズ

(二) 身體刑 身體刑トハ身體ニ苦痛ヲ與フル刑罰ナリ今日或國ニ行ハルル管刑杖刑ノ如キ是ナリ此等ノ刑罰ヲ加フル趣意ハ苦痛ヲ與ヘテ犯罪者ヲ懲ラシメ又之ヲ一般ニ公示シテ他人ノ此ノ如キ犯罪ニ倣ハンコトヲ防クト云フニ在リ古ニ於テハ剝削ノ如キ身體刑アリタレトモ今日ニ於テハ此ノ如キモノナシ苦痛ヲ與フルコトヲ目的トセサル身體刑アリ例ハ監禁ノ如シ此刑罰ハ初ハ犯罪者カ他人ニ苦痛ヲ與ヘタル反坐トシテ科シタルモノナレトモ後ニ至リテハ該犯罪者カ嘗テ處罰セラレタルコトアリト云フ事ヲ世ニ公示シ他人ヲシテ其者ノ前ニ自ラ戒ムルコトヲ目的トスルニ至レリ今日ニ於テハ此特徴ヲ附スルコトヲ否認スル學者頗ル多シ蓋シ之カ爲メニ犯罪者ヲシテ自暴自棄ニ陥ラシメ自ラ正業ニ就クコト能ハナラシムルノ虞アルヲ以テナリ

(三) 自由刑 自由刑トハ人ノ身體上ノ自由ヲ束縛スル刑罰ナリ自由刑ハ同時ニ身體ニ苦痛ヲ與フルコトアレトモ苦痛ヲ與フルコトヲ趣意トセスシテ自由ヲ拘束シテ犯罪者ヲシテ精神上ノ苦痛ヲ受ケシムルコトト危害ヲ一般社會ニ及ホサザラシメンコトトヲ目的トスルモノナリ徒刑、流刑、懲役、禁錮、禁錮、拘留、監

視等皆是ナリ此中最後ノ監視ハ嘗テ犯罪ヲ爲シタル者ノ舉動ニ注意シ更ニ罪惡ヲ犯サシラシメテシテ企圖スルニ過キス然レトモ其自由刑タルニ置リテハ則チ一ナリ

(四) 財産刑 財産刑トハ犯罪者ノ財産ヲ沒收スルコトヲ謂フ罰金科料ノ如キ即チ是ナリ其目的ハ等シク之ニ依リテ犯罪者ニ苦痛ヲ與ヘントスルニ在リ然レトモ人ノ貧富ノ程度如何ニ依リテ少額ノ罰金科料等ノ爲メニ苦痛ヲ感セタル者アルヲ以テ富者ニ對シテハ財産刑ハ無用ナリト説ク者アリ是ニ於テ或論者ハ財産刑ハ國家ノ收入ヲ増スモノナルカ故ニ之ヲ存置スルノ利ナルニ如カスト曰ヘリ古ニ於テハ死刑身體刑等ニ對シテ金錢ヲ出シテ犯罪者ノ罪ヲ免除シタルコトアリト雖モ今日ニ於テハ斯ル方法ヲ用ヒス

(五) 名譽刑 名譽刑ニハ名譽ヲ中止スルモノト名譽ヲ剝奪スルモノトノ二種アリ剝奪公權停止公權華族ノ禮遇停止位記勳章ノ剝奪懲戒免官ノ如シ此刑ヲ科スルノ趣意ハ加害者ヲシテ社會ニ對シテ信用ヲ失ハシメ之ニ因リテ苦痛ヲ感セシムルコトト併セテ一般社會ヲシテ害毒ヲ受ケサシメントスルトニ在リ

第二 民法上ノ制裁

(一) 損害賠償 損害賠償トハ不法行爲ヨリ生シタル損害ニ對シ一定ノ價ヲ爲スモノヲ謂フ損害賠償ニハ金錢ヲ以テスルモノト貨物ヲ以テスルモノトアリ其就レヲ問ハス凡テ加害者カ判決ノ結果トシテ被害者ニ引渡スモノヲ謂フ故ニ賠償ハ罰金ニ非ス賠償ノ額ハ初ヨリ確定スルモノト不確定ノモノトノ二種アリ後者ハ重ニ名譽毀損ノ場合ニ生スルモノナリ實際上金錢ニ見積ルコトヲ得ハカラサル名譽ノ毀損例ヘハ誹毀ノ如キモノニ對シ金錢ヲ以テ賠償ヲ爲サシムルコトハ不當ナリトハ佛蘭西主義ノ探ル所ニシテ英國主義ハ之ニ反シ金錢ニ見積ルコトヲ得サル損害ト雖モ金錢上ノ賠償ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシトセリ損害賠償ノ一種トシテ過意約款ナルモノアリ過意約款トハ契約ノ當事者カ豫メ賠償ニ關スル取極ヲ爲シタル契約ヲ謂フ

(二) 復權 復權トハ有權者カ他人ノ爲メニ妨害セラレタル權利行使ノ回復ヲ謂フ例ヘハ或物品ノ所有者カ其物品ヲ強盜ヨリ奪ハレタル場合ニ之カ返付ヲ受タルカ如シ不當利得ニ對スル回復詐害行爲ノ廢罷訴權原狀回復ノ如キモ亦

皆之ニ屬ス。不當得利ノ返還ノ義務ハ、債權ノ消滅ニ因リテ生ズ。又、債權ノ消滅ニ因リテ、債務者ノ履行ヲ爲サシムルコトヲ謂フ。直接履行ハ損害ノ賠償ヲ爲スモ救済ヲ受クルコト能ハサル性質ノモノニ對シテ爲スモノナリ例ヘハ書家カ揮毫ノ約束ヲ爲シナカラ之ヲ履行セザリシトキノ如キ俳優カ演劇ヲ爲スノ約定ヲ爲シナカラ之ヲ履行セザリシトキノ如キハ金錢ヲ以テスルモ償フコト能ハサルヲ以テ直接ノ履行ヲ爲サシムルナリ

(四) 或行爲ノ中止又ハ廢止並ニ或行爲 或行爲ノ中止トハ例ヘハ隣家ノ井ヨリ水ヲ引カントスル工事ヲ中止セシムルカ如シ廢止トハ既ニ築キタル塙ヲ撤去セシムルカ如シ終ニ或行爲ヲ爲サシムルコトトハ新聞紙ニ謝罪ノ廣告ヲ爲サシムルカ如シ廣ク行爲ト云フ中ニハ勿論不行爲ヲモ含ムモノナリ例ヘハ或商買ヲシテ或顧客ニ商品ヲ賣ラサシムルカ如シ書翰ニ「此書翰ニモ、此書翰ニモ」云レハ法律上該行爲ノ存在ヲ認メサルモノナリ法律ヲ禁シタル行爲ヲ爲シタル場合ノ如キハ多クハ之ヲ無効トス例ヘハ有夫ノ婦カ爲シタル婚姻ノ如キ強

ク爲ス催告ノ場合ニ於テハ一般ノ場合ニ於テハ一定ノ期間内ニ確答ナキトキハ追認シタルモノト看做スニ拘ハラズ自稱代理人ノ相手方ノ場合ニ於テハ之ト反對ニ追認ヲ拒絕シタルモノト看做ス又無能力者ノ相手方ノ催告ノ場合ニ於テハ之ヲ發スレハ足ルモ自稱代理人ノ相手方ノ場合ニ於テハ其確答カ本人ノ許ニ到達スルコトヲ要ス(第一一四條第一九條參照)

(ロ) 契約ノ取消ニ自稱代理人ノ爲シタル契約ハ本人ノ追認ナキ間ハ相手方ニ於テ自由ニ之ヲ取消スコトヲ得故ニ此點ニ於テハ自稱代理人ノ相手方ハ無能力者ノ相手方ニ比シ其保護ヲ受タルコト厚キモノト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ相手方ノ取消ヲ爲スコトヲ得ルハ本人ノ追認ヲ爲ササル間ニ限ル若シ一旦本人ノ追認アリタルトキハ其契約ハ既ニ有效ト爲ルカ故ニ以後之ヲ取消スコトヲ得ス又本人カ追認ヲ拒絕シタル場合ニ於テハ其行爲カ之ニ因リテ無効ナルコト確定スルカ故ニ其以後ニ於テモ亦之ヲ取消スコトヲ得ス而シテ相手方カ取消權ヲ有スルハ契約ノ當時代理權ナキコトヲ知ラザリシ場合ニ限ル若シ之ニ反シテ相手方カ契約ノ當時代理權ナキコトヲ知レルトキハ本人ノ追認ア

ルマテハ其契約ニ因リテ拘束セラレルコトヲ自ラ甘シタルモノト看ルコトヲ得ルカ故ニ特ニ取消權ヲ與ヘテ之ヲ保護スルノ必要ナキカ故ナルヘシ第一ニ五條參照) 然レモ其以對ニ依リテ消滅スルモノハ消滅スルモノト爲シテ又相手方カ契約ヲ取消スニハ何人ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲スモノナルヤハ一ノ問題ナリ 獨逸民法ニ於テハ此點ニ付キ特ニ明文ヲ設ケ相手方ハ本人又ハ代理人ニ對スル意思表示ニ依リ取消ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セリ 然ルニ我民法ニ於テハ之ニ關スル直接ノ規定ナキカ如シ然レトモ予ハ我民法ノ解釋上相手方ハ自稱代理人ニ對スル意思表示ニ依リテ其取消ヲ爲スヘキモノナリト信ス(第一二三條參照) 然レモ其以對ニ依リテ消滅スルモノハ消滅スルモノト爲シテ又相手方ハ本人又ハ代理人ニ對スル意思表示ニ依リ取消ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セリ 然ルニ我民法ニ於テハ之ニ關スル直接ノ規定ナキカ如シ然レトモ予ハ我民法ノ解釋上相手方ハ自稱代理人ニ對スル意思表示ニ依リテ其取消ヲ爲スヘキモノナリト信ス(第一二三條參照) 以上ハ自稱代理人ノ爲シタル契約ノ本人及ヒ相手方ニ對スル效力ノ説明ナリ予ハ是ヨリ進ミテ其自稱代理人ノ責任ニ付キ説明スヘシ然レモ其以對ニ依リテ消滅スルモノハ消滅スルモノト爲シテ又相手方ハ本人又ハ代理人ニ對スル意思表示ニ依リ取消ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セリ 然ルニ我民法ニ於テハ之ニ關スル直接ノ規定ナキカ如シ然レトモ予ハ我民法ノ解釋上相手方ハ自稱代理人ニ對スル意思表示ニ依リテ其取消ヲ爲スヘキモノナリト信ス(第一二三條參照) 以上ハ自稱代理人ノ爲シタル契約ノ本人及ヒ相手方ニ對スル效力ノ説明ナリ予ハ是ヨリ進ミテ其自稱代理人ノ責任ニ付キ説明スヘシ然レモ其以對ニ依リテ消滅スルモノハ消滅スルモノト爲シテ又相手方ハ本人又ハ代理人ニ對スル意思表示ニ依リ取消ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定セリ 然ルニ我民法ニ於テハ之ニ關スル直接ノ規定ナキカ如シ然レトモ予ハ我民法ノ解釋上相手方ハ自稱代理人ニ對スル意思表示ニ依リテ其取消ヲ爲スヘキモノナリト信ス(第一二三條參照)

其契約ハ全ク無効ノ行爲ト爲ルヲ以テ自稱代理人ニ於テモ其契約上何等ノ責任ヲ負擔スルノ理ナシ然レトモ此場合ニ於テ若シ相手方ニ損害ヲ生シタルトキハ自稱代理人ハ其相手方ニ對シテ責任ナキコト能ハサルナリ 自稱代理人ノ爲シタル契約ヲ本人ニ於テ追認セス又自稱代理人ニ於テモ其代理權アルコトヲ證明スルコト能ハザリシトキハ自稱代理人ハ相手方ニ對シテ如何ナル責任ヲ負フモノナルヤノ問題ニ付テハ學說及ヒ立法例ニ於テ種種ナル見解アルカ如シ我民法ニ於テハ諸國ノ立法例ニ倣ヒ又實際ノ便宜ヲ慮リ自稱代理人ハ相手方ニ對シ其選擇ニ從ヒ契約ノ履行又ハ損害賠償ノ責任ニ任スヘキモノトセリ(第一一七條第一項參照) 故ニ例ヘハ甲カ代理權ナキニ拘ハララス乙ノ代理人トシテ丙ヨリ其所有ノ家屋ヲ一萬圓ニテ買受タル約束ヲ爲シタル場合ニ於テ甲カ乙ヲ追認ヲ得ルコト能ハザリシトキハ丙ハ甲ニ對シ自ラ一萬圓ニテ其家屋ヲ引取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得或ハ又丙ハ更ニ丁ニ其家屋ヲ八千圓ニテ賣却シ甲ヨリ二千圓ノ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得但民法ニハ自稱代理人ノ責任ヲ或ハ契約ノ履行或ハ損害賠償ノ責任ト言フモ前ニモ述ベ

タル如ク決シテ契約上ノ義務ニ非ス相手方ヲ保護スルコリ生シタル一種ノ法律上ノ義務ナリト信ス。二、平而、損害賠償ノ請求スルモノハ損害賠償ニハ右ノ如ク自稱代理人ニ對スル契約ノ履行又ハ損害賠償ノ請求權トハ相手方カ不測ノ損害ヲ受クルコトヲ保護スルカ爲メニ付與シタルモノナリ故ニ若シ相手方カ代理權ナキコトヲ知レルカ若クハ自己ノ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキハ其權利ヲ有セス而シテ前ニモ述ヘタルカ如ク相手方カ代理權ナキコトヲ知レルトキハ契約ヲ取消スノ權利ヲ有セス故ニ代理權ナキコトヲ知レル相手方ハ無能力者ノ相手方ト略ホ同一ノ地位ニ在ル者ト謂フコトヲ得ヘシト信ス尙ホ我民法ニ於テ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其能力ヲ有セザリシ者ナルトキハ相手方ハ亦契約ノ履行及ヒ損害賠償ノ請求權ヲ有セス是レ我民法ハ相手方ト比較シ自稱代理人タル無能力者ヲ保護スルヲ相當ト認メタルカ故ナルヘシ(第一一七條第二項參照)。

二、單獨行為ノ場合ニ於テモ契約ノ場合ト同一ノ原則ヲ以テ其效力ヲ判斷スルコ

トヲ得ルヤ否ヤ若シ代理權ヲ有セサル者カ他人ノ代理人トシテ爲シタル單獨行為カ契約ノ場合ト同シク本人ノ追認ニ因リテ之ニ對シ其效力ヲ生スルモノトスルトキハ本人ニ取リテハ固ヨリ好都合ナルモ相手方ハ其行為ノ效力不確定ナルヲ以テ甚タ不利益ノ地位ニ立ツ者ナリト謂ハサルヘカラス而シテ契約ノ場合ニ於テハ相手方ハ代理權ナキコトヲ知レルカ若クハ其過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシ場合多キヲ以テ相手方ハ甘シテ其不利益ノ地位ニ立テタルモノナルカ若クハ過失ニ因リテ此ニ至リタルモノナリト謂フコトヲ得ヘキモ單獨行為ノ場合ハ全ク之ト事情ヲ異ニシ相手方ハ毫モ知ラサルモノニシテ其行為ヲ爲スニ付キ故意又ハ過失アルコトナシ隨テ此場合ニ於テモ亦契約ノ場合ト同シク相手方ヲ不利益ノ地位ニ置クハ頗ル酷ニ失スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ我民法ニ於テハ自稱代理人カ單獨行為ヲ爲シタルトキハ契約ノ場合ト異ナリ其行為ハ無効ナルコトヲ原則トセリ然レトモ單獨行為ニテモ其行為ノ當時ニ於テ相手方カ自稱代理人ノ代理權ナクシテ之ヲ爲スコトニ同意スルカ又ハ其代理權ヲ爭ハナリシトキハ自ラ甘シテ其不利益ノ地位ニ立ツモノト看

ルコトヲ得ルヲ以テ此場合ニ於テハ其單獨行為ハ前ニ契約ニ付キ述ヘタルト同一ノ原則ニ依リテ其效力ヲ判斷スヘキモノナリ尙ホ相手方カ自稱代理人ニ對シ其同意ヲ得テ單獨行為ヲ爲シタル場合モ亦同様ナリ(第一八條參照)

第六節 無效及取消

第一款 無效

嘗テ述ヘタル如ク法律行為カ有效ニ成立スルニハ一定ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス而シテ此有效條件ハ各種ノ法律行為ニ依リテ各異ナレトモ一般ニ之ヲ言ヘハ第一ニ意思表示アルコトヲ要ス第二ニ當事者カ行為能力ヲ有スルコトヲ要ス第三ニ法律行為ノ目的カ可能且適法ナルコトヲ要ス尙ホ其意思表示ニ付テハ原則トシテ意思ト表示ト符合スルコト並ニ詐欺又ハ強迫ニ因ル瑕疵ナキコトヲ要ス此ノ如ク有效條件ヲ具備シタルトキハ法律行為ハ有效ニ成立スルモノナリ此有效ナル法律行為トハ法律行為ノ目的トスル效力カ完全ニ發生スル場合ヲ謂フ然レトモ其法律行為ノ目的タル效力カ完全ニ發生シタルトキ

之ニ附帶シテ更ニ他ノ效力ヲ發生スルモ有效ナル法律行為ト云フニ於テ妨ガキモノナリ之ニ反シ右ノ如キ有效條件ヲ具備セザルトキハ法律行為ハ有效ニ成立スルコトヲ得ス其效力ハ或ハ無効或ハ取消シ得ヘキモノナリ是ニ於テカ法律行為ノ無効又ハ取消トハ果シテ何ヲ謂フカノ問題ヲ生ス予ハ先ツ法律行為ノ無効ニ付キ説明セントス
無効ナル法律行為トハ其目的タル效力ニ關シテハ法律上全ク存在セザルモノト看做スヘキ行為ヲ謂フ故ニ或ハ又無効ナル法律行為トハ事實上存在スルノミニシテ法律上全ク存在セザル行為ナリト謂フモ可ナルヘシ然レトモ法律上全ク存在セザル行為ト云フト云フトキハ之カ爲メニ或ハ誤解ヲ生スルノ虞アリ無効ヲ法律行為ニテモ法律上全ク何等ノ效力ナキニ非ス無効ナル法律行為ハ法律上或ハ損害賠償ノ原因ト爲ルコトアリ然レトモ無効ナル法律行為ハ其目的タル效力ヨリ之ヲ觀ルトキハ法律上全ク存在セザルモノト同一ナリ即チ當事者ハ無効ナル法律行為ニ因リ其目的タル權利ヲ得ルコトナク又義務ヲ負擔スルコトナク此點ハ無効ナル法律行為ノ特點ナリ

法律行為ノ無効ト爲ルノ原因ハ種種アリテ悉ク之ヲ列舉スルコトヲ得ナルモ
 今一二ノ例ヲ舉ケレハ法律行為ノ目的ノ不能又ハ不法當事者ノ意思能力ノ欠
 缺意思ト表示トノ符合セザルカ如シ而シテ此等ノモノハ各種ノ法律行為ニ共
 通ナル無効ノ原因ナルモ此他尙ホ各種ノ法律行為ニ無効ノ原因アリ例ヘハ婚
 姻養子縁組ノ無効ノ原因或ハ手形ノ無効ノ原因ノ如シ然レモ法律行為ニ當
 事者ニ對シ無効ナル場合ニ於テハ通常絕對ニ無効ナリ即チ管ニ法律行為ノ當
 事者ニ對シ無効ナルノミナラス何人ニ對シテモ無効ナリ然ルニ或場合ニ於テ
 ハ法律行為カ或人ニ對シテハ無効ナルモ他ノ人ニ對シテハ有效ナル場合アリ
 例ヘハ破産者カ支拂ヲ停止シタル後贈與其他ノ無償行為ヲ爲シタルトキハ其
 行為ハ破産債權者ニ對シテハ無効ナルモ其他ノ人ニ對シテハ有效ナルカ如シ
 (舊商法第九九〇條參照)而シテ學者ハ前述シタル何人ニ對シテモ無効ナル場合
 ヲ絕對的無効ト曰ヒ後ノ或人ニ對シテノミ無効ナル場合ヲ相對的無効ト曰フ
 然ルニ絕對的無効相對的無効ノ區別ニ關シテハ反對ノ學者多シ即チ此種ノ學
 者ハ法律行為カ無効ナリト云ヘハ常ニ所謂絕對的無効ノ場合ニ限ル一方ニ於

第一 狹義ノ結果罪

所謂狹義ノ結果罪トハ罪タル行為ヲ爲スニ依リ觀念セザル法定ノ事實ヲ發生
 セシメタル場合ニ於テ存在シ其過失アリタルト否トヲ區別セス過失ノ有無ヲ
 問ハサルヲ以テテ過失ナキ場合ニ於テハ其發生シタル事實ハ寧ロ一種ノ事
 變ト看做ス可キモノニシテ隨テ其責任ヲ行為者ニ嫁スヘキニ非サル如シト雖
 モ公ノ秩序ヲ維持スル必要上各國ノ成例ハ之ヲ刑ヲ加重スル原因ト爲シタリ
 前述ノ如ク所謂結果罪トハ觀念セザル法定ノ結果ノ發生即チ一種ノ事變ノ爲
 メ責任ヲ加重セラルル行為ニシテ所謂結果罪ニ於ケル意思ト謂フモ其内容ニ
 於テハ敢テ通常罪ニ於ケル意思即チ犯意ト異ナルコトナキナリ再說スレハ所
 謂結果罪ニ於ケル意思トハ觀念セザル法定ノ結果ヲ惹起スルニ至リタル通常
 罪ニ於ケル意思ニ外ナラス然レモ觀念セザル法定ノ結果ヲ惹起スルニ至リタル通常
 結果罪モ亦過失罪ト同シク觀念セザル法定ノ結果ノ發生ニ因リテ成立スル罪
 ニシテアル場合ニ於ケル結果罪ハ過失罪ト一致ス然レトモ兩者大ニ其性質ヲ

異ニスルヲ以テ概テ左ノ如キ區別アリ。第一、結果罪ニ於ケル意思ハ觀念セサル法定ノ結果ヲ惹起スルニ至リタル罪ヲ
 一、結果罪ニ於ケル意思ハ觀念セサル法定ノ結果ヲ惹起スルニ至リタル罪ヲ
 二、結果罪ニ在リテハ一定ノ行為カ觀念セサル法定ノ結果ヲ惹起シタルトキ
 ハソノ過失アルト然ラサルトヲ問ハス絕對ニ其結果ニ付キ責任ヲ負擔スル
 三、縱令觀念セサル法定ノ結果ヲ惹起セルトキト雖モ行為者ニ過失アル場合
 ニアラサレハ其結果ニ付キ責任ヲ負擔セシムルコトヲ得ス或ハ所謂結果罪
 四、過失ニ依リテ結果ヲ發生シタルニアラスハ成立セスト云フ者アリ此見解
 ナニ依レハ所謂結果罪ハ全ク過失罪ノ一種様ナリト云ハサルヲ得ス

第五段 餘論

罪ノ積極的罪態ノ主觀的觀察ヲ終ルニ臨ミ尙ホ犯意又ハ過失ニ關シ二三困難

ナル適用例ヲ掲ケントス。第一、行為失效目的物ニ關スル有形ノ阻礙ノ場合、行為失效ノ場合トハ一定
 第一、行為失效目的物ニ關スル有形ノ阻礙ノ場合、行為失效ノ場合トハ一定
 ノ目的物ニ對シ傷害ヲ加ヘタルニ拘ハラズ外界ノ妨碍ノ爲メ他ノ目的物ヲ傷
 害シタル場合ノ如シ此場合ニ於テ觀念セル目的物ニ對スル傷害行為ハソノ重
 罪又ハ未遂犯ヲ認メタル輕罪ナル場合ニ限り未遂犯ヲ以テ論シ既ニ傷害シタ
 ル目的物ニ對スル傷害行為ハ行為者ニ過失アリ且ツ過失ニ依ル犯行ヲ罪トス
 ル明文アル場合ニ限り過失罪ヲ以テ論ス。第二、目的物ノ錯誤ト行為ノ失效ト併發スル場合、一定ノ目的物ヲ傷害セ
 第二、目的物ノ錯誤ト行為ノ失效ト併發スル場合、一定ノ目的物ヲ傷害セ
 ントシタルニ拘ハラズ他ノ目的物ヲ傷害セントスル目的物ナリト觀念シテ之
 ニ對シ傷害ヲ加ヘタルニ外界ノ妨碍ノ爲メ偶然傷害セントシタル目的物ヲ
 傷害シタリトス此場合ニ於テハ目的物ノ錯誤ニ關スル理論ヲ參酌シテ直ニ其
 責任ヲ決スルコトヲ得。第三、想像上ノ終了ノ場合、行為者ハ其觀念セル結果ヲ惹起シタリト思料セ
 第三、想像上ノ終了ノ場合、行為者ハ其觀念セル結果ヲ惹起シタリト思料セ
 ルニ拘ハラズ實際上其結果ハ其後他ノ目的ヲ以テ爲シタル行為ニ因リ始メテ

發生シタルモノナリトス此場合ニ於テハ行為者ノ第一ノ行為ハ罪タル事實ヲ
觀念シテ爲シタルモノナルヲ以テ未遂犯若クハ罪ト爲ラサル未遂ト爲ス可ク
第二ノ行為ハ過失罪若クハ罪ト爲ラサル行為アリト爲ス可キ如シ

第二目 客觀的觀察

第一段 動作

動作トハ決心ニ依ル舉動ノ謂ニシテ決心ハ動作ノ主觀的部面ナリ舉動ハ動作
ノ客觀的部面ナリ而シテ決心ニ依據セル舉動即チ動作トハ所謂意思ノ實現ナ
ルヲ以テ當然意思ニ因リテ生シタル舉動ナルコトヲ必要トス故ニ左ニ掲タル
モノハ之ヲ舉動ト謂ヒ得ヘシト雖モ之ヲ動作トハ謂フコトヲ得ス
第一 有形的ニ強制セラレタル舉動 有形的ニ強制セラレタル舉動トハ外界
ヨリ身體ノ部面ニ及ホス強制ニ因リ生シタル舉動ヲ謂フモノニシテ其意思ヲ
活動セシムル餘地ナキ狀態ニ在ルモノヲ謂フ即チ他人ノ體力ノ爲メ(例ハ他
人ニ其手ヲ捉ヘラレ)又ハ他物ノ勢力ノ爲メ(例ハ他物ノ落下シタル爲メ)直接

其筋力ニ作用セラレテ第三者又ハ他物ヲ傷害シタル場合ノ如シ故ニ有形的ノ
強制トハ要スルニ器械的ニ強制セララルコトヲ謂フナリ此場合ニ於テハ其舉
動ハ決心ニ依據セザルモノナルヲ以テ之ヲ動作トハ謂フヘカラス
第二 無形的ニ強制セラレタル舉動 無形的強制トハ外界及ヒ内界ヨリ生理
的ニ精神ノ部面ニ及ホス強制即チ生理的ニ動神經ニ作用ス可キ強制ヲ曰フ夫
ノ所謂反射運動ノ如キハ即チ無形的ニ強制セラレタル舉動ナリトス可シ刑法
ハ第七十五條第一項ニ於テ抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所爲
ハ其罪ヲ論セスト規定ス學者ノ本項ヲ解スル者

(1) 或ハ本項ハ危急狀況即チ強制ニ對スル防衛權ヲ規定シタルモノナリト
曰ヒ
(2) イ 或ハ本項ハ無形ノ自由喪失ノ場合ヲ規定シタルモノナリト曰ヒ
ロ 或ハ本項ハ有形ノ自由及ヒ無形ノ自由ノ喪失ノ場合ヲ規定シタルモ
異說紛紛トシテ歸一スルトコロナシ蓋シ(1)危急狀況權ニ關スル規定ナリト爲

ス者ハ本項ノ不論罪ヲ以テ客觀的不論罪ノ事由ト爲サントシ(2)自由喪失ニ關スル規定ナリト爲ス者ハ本項ノ不論罪ヲ以テ主觀的不論罪ノ事由ト爲サントスルナリ而シテ主觀的不論罪ノ事由ト爲スハ主トシテ所謂意思自由說ニ基クモノニシテ人ハ善ヲ爲シ又ハ惡ヲ爲スノ二途ノ中ニ就キ自由ニソノ何レカヲ選擇シ得ルモノタルコトヲ前提トシテ本項ノ場合ニ於テハ不可抗力ニ因リ其選擇權ナキヲ以テ不論罪ト爲サナル可カラスト爲ス如シ此見解ニハ二様ノ非難アルヲ免カレズ

一 危險ナリ 是レ近時ノ學說ニ依レハ犯罪の傾向モ亦一ノ不可抗力タルカ如クシテ此見解ヲ貫徹スレハ教育又ハ治療ス可キ病者ハアル可シト雖モ刑ス可キ犯人皆無ト爲ル可シ

二 矛盾セリ 此見解ハ所謂自由意思ノ學說ヲ基本トスルニ拘ハラズ基本タル學說ト矛盾スルモノナリ是レ人ニハ凡テ選擇ノ自由アルヲ以テ刑ヲ科ス可キモノト爲スニ拘ハラズ此場合ニ於テモ善ヲ爲シ又ハ惡ヲ爲スノ二途ノ中ニ就キ現ニ惡ヲ爲スノ一途ヲ選擇シタルコト明白ナレハ

故ニ刑法ノ立法ノ趣意ヲ按ズレハ或ハ之ヲ自由ニ關スル規定ト爲セシ如シト雖モ少ナクトモ現時ニ於テ此見解ヲ採用シ難シ然ラハ之ヲ客觀的不論罪ノ事由ト爲ス見解ヲ採ラシカ近時ノ見解ニ一致スト雖モ別ニ刑法ノ立法者カ同條第二項ニ於テ危急狀況權ヲ規定シタル趣意ニ背馳ス予ハ已ムナク本項ヲ以テ有形的又ハ無形的ニ強制セラレタル舉動ノ不論罪タルコトヲ規定セルモノト解セン然レトモ此見解ニ依レハ動作タラサル舉動ヲ以テ罪ト爲ラスト爲スニ歸シ畢竟無用ノ規定タルニ過キサル可シ

動作トハ必スシモ決心ニ依據シタル動態ノミヲ謂フニ非ス又決心ニ依據シタル動態ヲモ謂フモノトス所謂動態ノ動作トハ身體ノ活動スル動作ヲ謂ヒ活動スル動作ハ其結果トシテ一定ノ事實ヲ惹起スルコトヲ常トス所謂靜態ノ動作トハ身體ノ活動セザル動作ヲ謂ヒ活動セザル動作ハ多クハ一定ノ事實ノ發生ヲ防止セザル結果ヲ生ス而シテ刑法ノ部面ニ於テモ動作ニ付キ前述ノ區別ヲ認メザルヘカラスシテ學者ハ動態ノ動作ヲ作爲ト稱シ靜態ノ動作ヲ不作爲ト稱ス

第一 作為又ハ行 刑法上罪ト規定シタル事實ヲ惹起スル動作ハ之ヲ作為又ハ行ト謂フ而シテ刑法ノ規定スル罪ハ主トシテ一定ノ事實ヲ惹起スル罪即チ所謂作為罪ニシテ作為ハ此種ノ罪ヲ成立セシムル主要ノ動作ナリトス予ハ特ニ主要ノ動作ナリト謂フ是レ後述スル如ク作為ハ作為罪ヲ成立セシムル唯一ノ動作ナリトハ謂フヘカラサレハナリ

第二 不作為又ハ不行 不作為又ハ不行トハ刑法上罪ト規定シタル事實ノ發生ヲ防止セザル動作ヲ謂フ不作為ノ動作ハ左ノ二様ノ罪ニ付テ罪タル動作ト爲ルコトヲ得

一 不作為罪 刑法ハ例外トシテ一定ノ事實ノ發生ヲ防止セザリシ行為ヲ罪ト規定スルコトアリ此種ノ罪ハ學者ノ所謂固有不作為犯又ハ純正不作為犯ト稱スルモノニシテ予ノ不作為罪ト稱スルモノナリ不作為罪ハ羅馬法ニ於山テモ認メラレタル罪種ナルカ時運ノ進歩スルト共ニ漸次其罪種ヲ増加セシムル傾向ヲ呈シタリ而シテ不作為カ不作為罪ヲ成立セシムル唯一ノ動作タラズ得ヘキコトハ固ヨリ論ヲ埃タス

二 作為罪 作為ハ作為罪ヲ成立セシムル唯一ノ動作ニ非スシテ作為罪ハ時ニ不作為ニ依リテモ亦之ヲ犯スコトヲ得ヘシ然レトモ作為ト雖モ違法ナルモノニ非スンハ作為罪ノ動作タルコトヲ得サルヲ以テ不作為モ亦違法ナルモノニ限リ作為罪ノ動作タルコトヲ得而シテ左ノ場合ニ於テハ不作為ハ違法ナリトス

(1) 法律上ノ特別義務アル場合 法律上ノ特別義務ハ或ハ法定ノ命令ナルコトアリ或ハ契約上ノ義務ナルコトアリ此種ノ義務者カ其義務ニ違背シ結果タル事實ノ發生ヲ防止セザリシ場合ニ於テハ作為罪ハ成立ス

(2) 其前アル作為即チ補綴スル他ノ作為ヲ爲スコトヲ至當トスヘキ作為ヲ爲シタル場合 此場合モ亦不作為ヲ違法トス可キ特別義務ヲ生ス可シト爲スハ現時ノ通説ニシテ此義務ヲ生ス可キ根據ハ一般ノ法規ニ在リト爲ス事常トスト雖モ論旨ハ極メテ薄弱ナリ予ハ法律上ノ義務ニアラスシテ事實上ノ義務ナル可シト信シ事實上ノ義務アル場合ニ於ケル不作為ヲ以テ違法ナリトスルハ極メテ危険ナリト信ス

第二段 事實

事實トハ凡テ存在又ハ發生スル事物ヲ謂フ即チ未來ニ屬スル狀況又ハ事變ニ相對シテ過去又ハ現在ニ屬スル狀況又ハ事變ヲ謂ヒ思考力ニ依リテ始メテ認識セラルル事物即チ見解等ニ相對シテ觀察シ得ヘキ事物又ハ觀察シ得ヘカリシ事物ヲ謂フナリ

而シテ所謂罪ノ客觀的部而タル事實ハ必スヤ刑法上明文ヲ以テ罪ト規定セラレタル事實ナルコトヲ要ス而シテ刑法上罪ト規定シタル事實ハ多種多樣ナリト雖モ其重要ナル種様ヲ舉クレハ概ネ左ノ三ト爲スコトヲ得

第一 外界ノ變更ヲ生ゼシメタル事實及ヒ外界ノ變更ヲ防止セザル事實 刑法ハ外界ニ變更ヲ生ゼシメタル事實ヲ罪ト規定スルコトヲ通常トスト雖モ尙ホ例外トシテ外界ノ變更ヲ防止セザル事實ヲ罪ト規定ス即チ彼ノ不作爲罪ハ凡テ外界ノ變更ヲ防止セザル事實ニ關スルモノニシテ上述ノ如ク罪ト規定シタル事實ノ發生ヲ防止セザル動作ニ因リテ生スルコトヲ常トス

第二 觀念セラレタル事實及ヒ觀念セラレタル事實 刑法ハ觀念セラレタル事實ヲ罪ト規定スルコトヲ通常トスト雖モ過失罪又ハ所謂結果罪ニ付テハ觀念セラレタル事實ヲモ罪ト規定シタリ

第三 實害ヲ生シタル事實及ヒ危險ヲ生シタル事實 危險トハ傷害ノ發生及ヒ傷害ノ不發生間ニ存スル一種ノ狀態ナリ是ヲ以テ危險ノ觀念ニハ如何ナル程度ニ於テ傷害ヲ發生セシムル力ヲ包含スルヤハ學者間ノ問題タルナリ或ハ危險ニ客觀的危險ト主觀的危險トノ區別アリ客觀的危險トハ傷害ノ發生シ得ル可能性ヲ謂ヒ主觀的危險トハ傷害ノ發生スル處ヲ謂フト爲ス者アリ極メテ適切ナル見解ト謂フヘシ此種ノ見解ニ從ヘハ危險トハ主觀的及ヒ客觀的ノ觀察ニ依リテ傷害ヲ生セシムヘキ狀態ナラザルヘカラス刑法ハ實害ヲ生スル事實ヲ罪ト規定スルコトヲ通常トスト雖モ時ニ危險ヲ生シタル事實ヲ罪ト規定スルコトナキニ非ス而シテ學者實害ヲ生スル罪ヲ實害罪ト謂ヒ危險ヲ生スル罪ヲ危險罪ト謂フ

因果關係

第三段 因果關係

第一 總說

積極的罪態ヲ客觀的ニ觀察スルトキハ動作及ヒ事實間ニハ因果關係ノ存在スルコトヲ必要ナリトス所謂因果關係トハ其動作ナクハ其事實ヲ生セサルヘシト判斷シ得ヘキ關係ヲ謂フモノトス蓋シ事實ハ必スシモ人ノ動作ノミニ依リ發生スルモノニ非スシテ常ニ他物ノ勢力ト相俟テテ發生スルモノトス而シテ事實ノ發生ニ缺クヘカラサル動作又ハ事情ハ學者ノ所謂條件ト稱スルモノナリト雖モ人ノ動作カ其事實ノ發生ニ付キ如何ナル條件タリシ場合ニ於テ之ヲ其原因ナリト爲シ隨テ其事實ニ對シ因果關係アリト謂フコトヲ得ヘキヤニ付テハ異説アル所ナリトス

一 最終ノ條件ヲ以テ原因ト謂フヘシト爲ス説 此説ニ依レハ人ノ動作ニ依リテ一定ノ事實ヲ發生セシメタル場合ト雖モ其動作アリタル後他ノ條件カ生シタル場合ニ於テハ因果關係アリト謂フコトヲ得ス

二 最モ有力ナル條件ヲ以テ原因ト曰フヘシト爲ス説 此説ニ依レハ無數ノ條件中事實ヲ發生セシムルニ付キ最モ有力ナリシモノヲ以テ原因ト爲スヘキヲ以テ人ノ動作ニ依リ一定ノ事實ヲ發生セシメタル場合ト雖モ他ニ有力ノ條件アリタル場合ニ於テハ因果關係アリト謂フコトヲ得ス

三 凡テノ條件ヲ以テ原因ト謂フヘシト爲ス説 是レ如何ニ微細ナル條件ト雖モ其條件ナシトセハ事實ハ發生セサル可キヲ以テナリ

予ハ第三説ヲ可トシ動作カ事實ヲ發生セシムル條件タリシトキハ其如何ナル條件ナルキヲ區別セシテ其動作及ヒ事實間ニハ因果關係アリト言ハントス故ニ動作カ他ノ事由ト共ニ事實ヲ發生セシムル條件タリシ場合ニ於テモ尙ホ之ヲ事實ヲ發生セシメタル原因ト謂フコトヲ得ヘシ所謂他ノ事由トハ他ノ動作即チ他人ノ動作又ハ自己ノ他ノ動作及ヒ事情ヲ曰フ他人ノ罪タル動作ヲ教唆シ又ハ幫助スル動作モ亦其結果ニ對シ因果關係ヲ有ス可シト雖モ法律上其中斷ヲ認メサル可カラサルコトハ後述ス可シ

因果關係ハ之ヲ犯意又ハ過失ノ問題ト嚴ニ區別スルコトヲ要ス因果關係ハ積

極的罪態ノ客觀的觀察ニ於テ存在スルモノニシテ犯意又ハ過失ハ其主觀的觀察ニ於テ存在スルモノナリ故ニ罪ニ因果關係アリト判斷シタルトキト雖モ犯意又ハ過失ナキトキハ罪ハ成立セザルナリ

第一 刑法上ノ因果關係

純理上ヨリ推斷シタル因果關係ノ何タルヤハ既ニ之ヲ上述シタリ然レトモ此純理上ヨリ推斷シタル因果關係ヲ以テ直チニ之ヲ刑法上ノ因果關係ト爲スコトヲ得ス是レ刑法ハ暗黙ノ中ニ純理上ノ因果關係ヲ限定又ハ擴張シテ一種特別ナル因果關係ヲ認メタルコト疑似ノ餘地ナケレハナリ刑法上ノ因果關係ノ何タルヤヲ説明スルニ付テハ其純理上ノ因果關係ト相違スル點即チ或ハ制限セラレタル部分又ハ或ハ擴張セラレタル部分ノミヲ説明スルヲ以テ足レリトス

第一 純理上因果關係ヲ認ムヘクシテ刑法上之ヲ認ムヘカラザル場合

一 責任能力者カ犯意アル動作ヲ爲シタルトキハ其動作カ他人ノ教唆又ハ幫助

助ニ原因シタリトスルモ更ニ新ナル因果關係ヲ生スヘクシテ教唆又ハ幫助ノ動作ト發生セル事實トノ間ニ於ケル因果關係ハ中斷スルモノトス蓋シ刑法ハ教唆又ハ幫助ノ動作ヲ以テ事實ヲ惹起スル效力アルモノト看スシテ之ヲ他人ノ動作ニ加功スルモノト看做セルカ故ニ教唆又ハ幫助ノ動作ト發生シタル事實トノ間ニハ因果關係ナシト謂ハザルヘカラス學者曰ク刑法ニ於テハ因果關係カ肉體的ニ仲介セラルル場合ニ於テノミ惹起セラレタリト謂フコトヲ得ヘク心理的ニ仲介セラルル場合ニ於テハ然ラスト是レ此謂ナリ

二 因果關係ノ進行カ基本タル罪ノ本質ニ適應セザル場合ニ付テハ因果關係アリト謂フコトヲ得ス此制限ハ所謂通常罪又ハ過失罪ニ付テモ其適用ヲ有スヘシト雖モ主トシテ所謂結果罪ニ付キ適用セララルモノトス而シテ刑法ハ此種ノ制限ヲ認ムル根據ハ純タル結果ノミニ對シ歸責スルハ近時ノ立法ノ傾向ニ背馳スト謂フニ外ナラス換言スレハ現時ノ國法ハ尙ホ特種ノ結果罪ニ對シ歸責スルヲ以テ此種ノ制限ヲ認ムルニ非スハ不當ノ結果ヲ生スヘシト謂フニ外ナラス

第二 純理上因果關係ヲ認ムヘカラスシテ刑法上因果關係ヲ認ムヘキ場合
 事實ハ純理上單ニ作爲ニ因リ惹起セラレルモノナルヲ以テ事實ノ發生ヲ動作
 ニ依リテ防止セザリシ場合ニ於テハ純理上其事實ニ對シテ因果關係アリト謂
 フコトヲ得スト雖モ刑法ハ明文ヲ以テ所謂不作爲罪ヲ認ムルコト尠カラサル
 ヲ以テ刑法論トシテハ此場合ニ於テモ亦事實ニ對シ因果關係ヲ有スルモノト
 謂ハサルヘカラスト信ス

一 或ハ不作爲ノ場合ニ付テハ因果關係存在セスト雖モ之ヲ罪ト爲スコトヲ
 然レトモ不作爲ト因果關係トノ關係ヲ論スル學說ニハ種種アリ

二 或ハ不作爲ノ場合ニ付テモ因果關係存在スト論スル學說アリ 此學說モ
 得ト論スル學說アリ

- 亦之ヲ二ニ區分スルコトヲ得
- (1) 不作爲ノ場合ニ付テモ積極的行動アルヲ以テ因果關係存在スト爲ス見
 解
 - (2) 不作爲ハ一種ノ原因ナリト爲ス見解 此見解ニ依レハ事情ヲ異ニスレ

秘露ノ法律ニ從フコトヲ得ヘシト主張スルノ權利ヲ有セザレハナリ

唯沿岸海ヲ單ニ通過スル船舶ハ該沿岸海所屬國ノ法律ニ服從スルコトヲ要セ
 ス是レ一般ノ國際法トシテ認メラル所ナリト雖モ英國ニ於テハ「フランコニ
 ヤ」號事件以來此原則ニ從フコトヲ認メス

(第三) 公海内ニ於ケル船舶ニシテ本國ヲ代表スルモノハ本國ヲ代表セザル船
 舶ト雖モ公海内ニ於テハ何レノ國ノ主權ノ下ニモ立タサルモノナリ本國ヲ代
 表スル船舶カ公海内ニ於テ何レノ國ノ主權ノ下ニモ立タサルハ論ヲ埃タス但
 交戰國一方ノ代表船カ公海内ニ於テ交戰國他方ノ代表船ノ爲メニ攻撃ヲ受ク
 ルコトヲ免レサルハ說明ヲ埃タス

(第四) 他國領海内ニ在ル船舶ニシテ本國ヲ代表スルモノハ代表船ノ最も重要
 オルモノハ軍艦ナリ軍艦トハ何ソト云フコトニ關シ國際法協會ノ議決ヲ舉ク
 ルハ左ノ如シ

「現役海軍將校ノ指揮ヲ受ケ海軍軍人之ニ乗組ミ海軍旗ヲ掲グルコトヲ得ル
 一切ノ船舶ハ之ヲ軍艦ト看做ス」

我國ノ軍艦外務令第二條ニハ「本令ニ於テ軍艦ト稱スルハ海軍旗章條例第十三條第十四條第十八條第十九條ニ依リ旗旛ヲ掲タル艦船艇ノ一又ハ二以上ヲ謂ヒ指揮官ト稱スルハ軍艦ノ最高指揮官ヲ謂フ」ト規定セリ

我輩ノ考フル所ニ依レハ軍艦タルノ要素ハ左ノ如シ

第一 軍艦ハ本國ヲ代表スルモノナラサルヘカラス彼ノ軍艦ハ本國ノ土地ノ延長シタルモノナリトノ説ハ我輩ノ取ラサル所ナリ何トナレハ本國ノ土地カ延長スルトハ事實ニ於テアリ得ヘカラス事ナレハナリ

第二 軍艦ハ船タルノ實體ヲ具ヘサルヘカラス

第三 軍艦ハ武裝シタルモノナラサルヘカラス但武裝シタル船舶ハ悉ク軍艦ナリト云フニ非ス例ヘハ商船カ海賊ニ備ヘンカ爲メニ武裝スルモ之カ爲メニ軍艦ト爲ルコト能ハス又軍艦カ軍艦タルコトヲ免レンカ爲メニ一時武裝ヲ解タモ之カ爲メニ軍艦タルコトヲ失フモノニ非ス

第四 軍艦ハ海軍ノ軍人ノ指揮シ又海軍ノ軍人カ之ニ乗組ムコトヲ要ス故ニ國際法協會ノ議決スルカ如ク其乗組員カ現役ニ服スル者ナルコトヲ

要スルニ非ス

第五 軍艦ハ軍艦旗ヲ樹ツルコトヲ要ス但詐僞ノ爲メニ一時軍艦旗ヲ撒スルモノニ因リテ軍艦タルノ性質ヲ失フモノニ非ス

軍艦ハ本國ヲ代表スルモノナルカ故ニ外國ニ在ルモ外國ノ干渉ヲ受クルコトナシ又該外國ノ法權警察權等ノ下ニ服従スルコトナシ又本國ヲ代表スト云フノ理由ヲ以テ相當ノ敬禮ヲ受ク軍艦カ碇泊國ノ稅權ノ下ニ服従スルヤ否ヤハ各國其採ル所ノ主義ヲ異ニス

軍艦ハ外國ノ領海内ニ於テ種種ノ特權ヲ有スルモノナリト雖モ絕對ニ碇泊地ノ法律ニ從ハスシテ可ナルモノニ非ス軍艦カ必ス服従セサルヘカラサルコトヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 平時ニ於テモ戰時ニ於テモ碇泊地ノ局外中立ノ規則ニ服従セサルヘカラス例ヘハ「スエズ運河ニ碇泊セル船舶ハ一箇ノ碇泊所ニ二十四時間以上碇泊スルコトヲ得サルカ如ク又戰時ニ於テ中立國ニ在ル軍艦カ中立ニ關スルコトニ付テ該中立國ノ命令ニ從ハサルヘカラサルカ如シ

第二 軍艦ハ平和ノ目的ヲ主トスルモノニ非サルカ故ニ軍艦ニ向ヒテ退去ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ從ハサルヘカラズ立國ニ對シテ軍艦中ノ中立第三 軍艦カ外國ノ港ニ入りタルトキハ其港ノ規則ニ服從セザルヘカラズ第四 軍艦ハ碇泊港ノ國家ニ行ハルル檢疫規則ニ從ハサルヘカラズ我國ノ海港檢疫法第十三條ニ於テハ外國ノ軍艦カ日本ニ於テ日本ノ檢疫規則ニ從ハサルヘカラサルコトヲ規定セリ又日本ノ軍艦カ外國ニ在ルモノニ關シテハ軍艦外務令第七條ニ軍艦ハ外國港灣ニ出入ノ際及其ノ碇泊中ハ其ノ地ノ港則及衛生規則ヲ遵守セムコトヲ要スルト規定セリ然レトモ一般ノ慣例ニ依レハ軍艦ノ艦長カ若シ名譽ノ言葉ヲ以テ該軍艦ニ病者ナシトノ保證ヲ與フレハ之ニ對シテ檢疫ヲ行ハサルモノナリ

第三 輸出入及關稅

今日ニ於テハ各國皆領國主義ヲ採ラサルカ故ニ海上ニ於テモ陸上ニ於テモ外國ヨリノ輸入ヲ許シ又外國ヘ貨物ヲ輸出スルコトヲ自由ニス此原則ニハ物ニ對スル制限ト時ニ關スル制限ト場所ニ關スル制限トアリ其何レヲ問ハス皆國

家ノ安寧秩序ヲ保タンカ爲メニ出ツルモノナリ物ノ制限トハ國家ノ專賣品、人類動植物等ニ害アル物、國家ノ防禦上ノ利害ニ關係アル物、風俗ヲ害スルノ虞アル物等ニ對シテ輸入又ハ輸出ヲ博スルコト是ナリ例ヘハ日英通商航海條約第五條第二項ノ規定並ニ同議定書第一項末段ノ約定ノ如キ是ナリ

時ノ制限トハ例ヘハ流行病ノ流行スルトキ又ハ戰爭ノ繼續中ヲ限リ輸出入ヲ制限スルモノヲ謂フ

場所ノ制限トハ例ヘハ軍事上重要ナル場所ニ外國ノ貨物ヲ輸入スルコトヲ禁スルカ如ク又惡疫流行地ヨリ外國ニ貨物ヲ輸出スルコト又ハ其地ヘ外國ヨリ貨物ヲ輸入スルコトヲ禁スルカ如シ

各國ハ課稅ニ關スル獨立ノ權利ヲ有スルカ故ニ外國ヨリノ輸入物及ヒ外國ヘノ輸出物ニ對シ自由ニ稅ヲ課スルコトヲ得ヘシ此權利ヲ絕對ニ行使シテ課スル所ノ稅率ヲ名ケテ國定稅率ト謂フ然レトモ各國ヲシテ絕對ニ國定稅率ニ依ラシムルトキハ外國カ危害ヲ受クルノ虞アルヲ以テ或國家ト或國家トノ間ニ協定稅率ヲ約定ス協定稅率トハ或貨物ニ對シ幾何ノ稅ヲ課スルヤヲ條約

附帶スル税目ニ於テ約定スルモノナリ協定税率ノ特色ハ條約締結國一方カ締結國他方ニ對シテ過重ノ税ヲ課スル能ハサルコトニ在リ條約國ハ必スシモ相互的ニ協定税率ヲ定ムルモノニ非ス甲國ヨリ乙國ニ輸入スル貨物ニ對シテハ協定税率ニ依ルモ乙國ヨリ甲國ニ輸入スル貨物ニ對シテハ國定税率ニ依ルコトヲモ得ヘキモノナリ我國ニ於テハ安政五年ノ條約以後外國ヨリ日本ニ輸入スル貨物ニ對シテハ常ニ協定税率ニ依ルコトヲ定メタリ今日ノ條約ニ於テモ亦然リ各國若シ絕對ニ國定税率ノ主義ヲ採リ外國ヨリノ輸入物ニ重キ税ヲ課スルトキハ之カ爲メニ關稅戰爭ヲ惹起シ條約國雙方ノ經濟上ノ利益ヲ害スルノ虞アリ

税率ハ價ニ從ヒテ定ムルモノト量ニ從ヒテ定ムルモノトノ二種アリ從價税ニ依レハ或貨物ノ價ヲ如何ニシテ定ムヘキヤヲ決定セサルヘカラス例ヘハ佛蘭西ヨリ日本ニ輸入スル葡萄酒ニ對シ葡萄酒ノ價格ニ從ヒテ幾割ノ税ヲ課スヘシト云フト雖モ其葡萄酒ノ價格ハ佛蘭西ノ原產地ニ於ケル價格ナルカ佛蘭西ノ市場ニ於ケル價格ナルカ若クハ運賃保險料等ヲ合セタル日本ニ於ケル價格

ナルカ不明ナリ故ヲ以テ此等ノ事ハ亦條約締結國ノ合意ヲ以テ決定セサルヘカラス日本ト英國トノ條約ノ附屬税目ニ於テ從價税トハ如何ナル價格ノ標準ニ依リタル税ナルヤニ關シ左ノ如ク約定セリ

此ノ税目ニ從ヒ輸入物品ニ課スヘキ從價税ハ其ノ物品ノ仕入地產出地若ハ製造地ニ於ケル價格ニ其ノ仕入地產出地若ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ル迄ノ保險料運賃ヲ加算シ又手數料アルトキハ之ヲモ加算シテ算定スヘシ

此價格ニ關シ輸入者ハ成ルヘク之ヲ低クセンコトヲ求ムヘク税ヲ課スル國家ハ成ルヘク之ヲ高クセンコトヲ求ムヘシ若シ商賣ト國家トノ間ニ貨物ノ評價ニ付テ一致セサルトキハ國家ノ定メタル評價ニ從ハサルヘカラス然レトモ國家カ若シ高ク評價シタルトキハ商賣ハ之カ爲メニ過重ノ税ヲ拂ハサルヘカラサルカ故ニ此弊害ヲ矯正セシムカ爲メニ種種ノ方法講セラレタリ例ヘハ政府ヲシテ其貨物ヲ悉ク買上ケシムヘシト云フカ如キ其地ノ多クノ商賣ヲ呼出シテ之ヲ評價セシムヘシト云フカ如キ或ハ價ヲ以テ支拂フ代リニ貨物ノ幾分ヲ納メシムヘシト云フカ如シ

通過税ハ之ヲ免除スヘキモノナリ何トナレハ通過スル貨物ハ通過國ニ於テ使用セラルル物ニモ消費セラルル物ニモ非アレハナリ故ニ或貨物ヲ通過税ヲ免除セラレンカ爲メニハ單ニ通過スル物ニシテ決シテ其地ニ於テ消費又ハ使用セラレザル物ナリトノ事ヲ證明セザルヘカラス通過税ヲ免除スヘキコトハ各國ノ條約中ニ之ヲ規定スルモノ極メテ多シ彼ノ再輸出物ナルモノハ即チ通過物ナルカ故ニ之ニ課税ヲ免ス其課税ヲ免スル方法ニハ初ヨリ税ヲ免除スルモノアリ又ハ一旦納メタル税ヲ通過物タリシトノ證據十分ナリトノ理由ヲ以テ後ニ至リテ還付スルモノモアリ例ヘハ日朝通商航海條約第八條ハ再輸出物ニ關スル左ノ如キ約定ヲ設ケタリ

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ到ル他ノ一方ノ商人、工業者及注文取集旅商カ見本トシテ輸入シタル總ラノ有税物品ニ對シテハ其ノ國ノ法律ヲ以テ定メラレタル期限内ニ賣却カレスシテ再輸出スルコトナリ而シテ右再輸出ノ爲メ及税關倉庫ニ送戻ス爲メニ必要ナル定式ヲ履行スルニ於テハ輸出入ニ關スル一切ノ取立金ヲ免除スヘシ但シ右見本ノ再輸出ニ付テハ最初輸入ノ際

ヲ實際ニ徵スルニ農家ハ貨幣ノ出入緩漫ニシテ隨テ一時ノ手許有金多ク之ニ反シテ商工業者ハ貨幣ノ收支頻繁ナルヲ以テ手許有金ヲ要スルコト比較的小額ニシテ都府ト地方トヲ比較シ人口ノ稠密ナル國ト其稀薄ナル國トヲ對照スレハ貨幣ノ流通ハ前者ニ於テ急速ナルヲ見ルナリ又貨幣ヲ遠隔ノ地ニ送ルニ際シ其途中ニ在ルニ當リテハ固定スルコト手許有金ニ異ナラサルヲ以テ輸送ニ要スル時日多キハ手許有金ノ多額ナルト同一ノ結果ヲ生スヘキナリ故ニ運輸機關ノ進歩ハ貨幣流通ノ速力ヲ増ス所以ナリトス

第三 信用制度利用ノ程度 右ニ述ヘタルカ如ク一國ニ於ケル貨幣ノ需要額ニ對シ直接ニ影響ヲ及ホスモノハ貨幣ヲ使用スル取引ノ多少ト貨幣流通ノ速是ナリ而シテ貨幣ヲ使用スル取引ヲ比較的減少シ且貨幣ノ流通ヲ迅速ナラシムルモノハ信用制度ナリトス例ヘハ甲、乙、丙、丁自ラ其手許有金ヲ保管スルトキハ各二百圓ヲ要シ總額八百圓ハ常ニ停滯スルニ反シ若シ甲、乙、丙、丁各百五十圓ヲ銀行ニ預ケ入ルルトキハ銀行ハ此預金ノ過半ヲ使用スルヲ以テ手許有金トシテ停滯スル貨幣ハ減少スルモノトス而シテ銀行ニ於テ預金者ノ數増加ス

ルトキハ貨幣ノ出入減少シテ帳簿上ノ決算即チ振替ナルモノ増加スルカ故ニ銀行カ預金ヲ運用シ得ヘキ割合ハ必ス上騰スルナリ更ニ一步ヲ進メ數多ノ銀行カ中央銀行ニ其手許有金ノ一部ヲ預ケスルトキハ中央銀行ハ又此預金ノ一部ヲ運用シ諸銀行間ニ於ケル貸借ヲ中央銀行ノ帳簿上ニ於テ決算セハ貨幣ヲ節約スルコト決シテ尠少ナラサルナリ之ニ加フルニ手形小切手、保證準備ヲ以テ發行セル銀行券等ハ皆諸種ノ支拂ニ用ヒラレ貨幣ノ需要額ヲ減スルコト大ナリトス試ニ英佛ヲ比較スルニ英ノ人口ハ佛ヨリ多キコト二百萬商工業ノ發達ハ英國遙ニ佛國ヲ凌駕スルニモ拘ハラズ英國ニ存在スル貨幣ノ總額ハ佛國ノ貨幣存在額ノ半ニモ滿タスト云フ而シテ其然ル所以ハ主トシテ英國ニ於ケル信用制度ノ發達ニ歸セサルヘカラサルナリ

其次ニ貨幣ノ流通額ニ増減ヲ來ス原因ヲ見ルニ

第一ニ貨幣ノ原料タル貴金屬ノ產出額ハ各國ノ貨幣流通額ニ影響ヲ及ホスモノニシテ金銀ノ產出多ケレハ貨幣ノ流通額自ラ増加スルモラトス然レトモ一箇年ニ於ケル金銀ノ產出額ハ古來蓄積セル世界ノ金銀存在額ニ比シ甚少ク

且年年產出スル金銀ハ悉ク貨幣ト爲ルモノニ非ス又貨幣磨損ノ爲メニ既存ノ金銀多少減少スルカ故ニ常ニ之カ補充ヲ要スルナリ是ヲ以テ年年ノ產出額ニ依リテ世界ニ於ケル貨幣ノ増加スル速力ハ寧ロ緩漫ナリトス

第二ニ貴金屬ハ裝飾、工藝ノ目的ニ使用セラルルコト少カラズ既存ノ貨幣ヲ鑄解シテ此用ニ供スレハ貨幣ノ流通額ヲ減シ直チニ地金ヲ用フルトキハ貨幣流通額ノ増加ヲ妨グル所以ナリ次ニ金銀ノ貯藏モ亦然リトス即チ印度、支那等ニ於テハ財寶トシテ金銀ヲ貯藏スル風習盛ニ行ハレ之カ爲メニ貴金屬ノ二國ニ吸收セラルルノ額少カラストス又文明國ニ於テモ戰爭、革命又ハ恐慌ノ起リタルトキハ貨幣ヲ貯藏スル者少カラズ是レ即チ直接ニ貨幣ノ流通額ヲ減スルモノト謂フヘキナリ

第三ニ一國ニ於ケル貨幣流通額ノ増減ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノハ國際貸借ノ關係ナリトス國際ノ貸借ハ財貨ノ輸出入ヲ始トシテ債券、株式等ノ賣買、外債ノ募集、償却及ヒ利息ノ支拂資本ノ放下、運賃、利潤ノ受拂等ノ原因ニ基クモノニシテ多クハ爲替作用ニ依リ決算スト雖モ金銀ノ出入ヲ生スル場合少カラズ而

シテ貴金屬輸入セラルルトキハ貨幣ノ流通額ヲ増加シ之ニ反シテ貴金屬流出スルトキハ貨幣ノ流通額減少スル結果ヲ生ズルモノトス。原因ニ其ノ如キハ、以上列舉セルカ如キ原因ニ因リ貨幣ノ需要額及ヒ流通額ハ増減伸縮スルモノニシテ二者ノ比例變更スルコトナクシテハ貨幣ノ價格ハ變動スルコトナシト雖モ需要額比較的增加スレハ貨幣ノ價格ハ上騰シ比較的增加スレハ貨幣ノ價格ハ低落ヲ來スヘキモノトス。貨幣價格ノ高低ハ他ノ財貨ノ價格之ヲ表示スルモノニシテ貨幣ノ價格ニ變動ヲ生ズレハ他ノ財貨ノ價格ハ反比例ヲ以テ上下スヘキナリ。然レトモ貨幣ノ需要額ト流通額トノ關係變更スルニ當リ其影響ハ直チニ全國ニ波及シ且同一ノ程度ヲ以テ各種ノ財貨ノ價格ヲ變動スルモノニ非ス。其影響ハ先ツ一國經濟界ノ一部ニ起リ漸次ニ他ノ方面ニ及ブモノトス。例ヘハ從來専ラ金融市場ニ於テ貸付資本ニ用ヒラレタル貨幣ノ多額外債ノ募集ニ應シ外國ニ流出セルカ如キ場合ヲ見ルニ貸付資本ノ減少ニ因リ先ツ金利ノ騰貴ヲ來シ爲メニ借入資本ニ依頼スル製造家ハ生産費ノ増加ニ苦ミ又借入資本ヲ以テ營業スル商人ハ其購買力ヲ減ス是ヲ以テ製造家ハ速ニ製造品ヲ賣却セ

ンコトヲ欲シ商人ハ買入ヲ減スルノ傾向ヲ生シ其結果トシテ製造品ノ價格ハ下落スルニ至ラン是レ固ヨリ一例ニ過キスト雖モ貨幣ニ存在スル原因ノ爲メニ物價ニ變動ヲ生ズルハ幾多ノ時日ヲ要スルモノニシテ且其影響ノ程度ハ諸種ノ財貨ニ對シテ同一ナラサルナリ故ニ一ノ原因未タ結果ヲ現ハササルニ當リ反對ノ原因生シテ相抑制スルコトアルナリ例ヘハ右ニ掲ケタル例ニ於テ貨幣一度外國ニ流出スルモ幾ナラスシテ價全ノ收容ニ因リ巨額ノ貨幣輸入セララルニ於テハ貨幣流出ノ影響ハ之カ爲メニ其勢力ヲ失フヘキナリ。貨幣ノ價格ハ之カ原料タル貴金屬ノ生産費ニ因リテ定マルモノナリト爲ス者アレトモ是レ認見タルヲ免レス。生産費カ直接ノ關係ヲ有スルハ貨幣ノ流通額ナリトス而シテ流通額ニ増減ヲ來ストキハ間接ニ多少貨幣ノ價格ヲ變動スル所以ナリト雖モ曩ニ述ヘタルカ如ク金銀年年ノ産出額ハ古來ノ存在額ニ比シ甚タ寡少ナルモノニシテ縱令産出額ノ一部ハ生産費小ナリトスルモ其産出無限ニ増加スルコト能ハス又一金鑛ニ於テ生産費増加スルモ金ノ價格ヲ騰貴セシメテ其生産費ヲ償フニ至ラシムルコト能ハナルナリ例ヘハ我國ニ於テハ金

一々ノ生産費五圓ニ達スルマテハ收支相償フト雖モ五圓以上ニ至ルトキハ損失ヲ來スヲ以テ金ノ生産ハ中止セラレ金ノ貨幣ト爲ルコト減少スヘシ之ニ反シテ生産費減少スルトキハ金ノ生産増加シテ其貨幣ト爲ルコト亦多カルヘキナリ此ノ如ク金ノ生産費ハ金貨ノ流通額ニ多少増減ヲ來スヘキ力アリト雖モ貨幣ノ價格ニ對シテハ直接ニ影響スル所ナク金地金ノ生産費如何ニ増加スルモ其價格ハ貨幣法ニ定ムル價格單位ノ標準ヲ制限トシ又生産費減少スルモ價格單位ノ標準以下ニ下ルモノニ非ス何トナレハ自由製貨ノ權ヲ以テ何時ニテモ之ヲ貨幣ニ製造スルコトヲ得レハナリ若シ若干ノ差異アリトスレハ造貨手數料之ヲ徵收スル國ニ於テ之運賃保險料製造中ニ損失スル利子等ニ過キササルナリ

終ニ貨幣價格ノ増減カ社會ニ及ボス影響ニ付テ一言セント欲ス貨幣ノ重要ナル職務ハ價格ノ本位タルニ在ルヲ以テ價格ノ變動最モ少キヲ要スト雖モ多少ノ變動ハ到底免レサル所ナリトス而シテ貨幣價格ノ低落ハ先ツ物價ノ騰貴ニ現ハレ爲メニ生産ヲ獎勵シ資本ノ増殖賃銀ノ上進ヲ來シ次ヲ消費ノ増大ヲ促

スモノトス又債務ノ負擔ヲ輕減シ之カ返償ヲ容易ナラシムルヲ以テ取引自ラ活潑ト爲ルナリ然レトモ債權者及ヒ確定セル貨幣收入ヲ有スル者ハ損失ヲ被リ勞動者ノ如キモ賃銀ノ上進物價ノ騰貴ニ伴ハサルトキハ即チ被害者ノ地位ニ立ツモノトス之ニ反シテ貨幣ノ價格上騰スルトキハ前述ニ反對ノ結果ヲ來スモノナリ若シ貨幣價格ノ變動ニシテ急激ナルトキハ貸借者ハ不當ノ利害ヲ受タルコト甚シク價格下落ノ場合ニハ投機ヲ獎勵シテ經濟界ノ基礎ヲ破壞シ價格上騰ノ場合ハ甚シク產業ヲ萎靡セシムルモノトス然レトモ貨幣流通額次第ニ増加シ若クハ信用制度發達シテ貨幣ノ需要額漸次ニ減少シ以テ貨幣ノ價格徐徐ニ低落スルハ寧ロ喜フヘキ現象ト謂フヘキナリ「ジエヴォンズ」曰ク金價ノ下落ハ既ニ獲得セル富ヲ享有セル者ヲ損シ現在富ヲ作りツツアル者ヲ利シ隨テ社會ノ活潑ナル者熟練ナル者ヲシテ益々勉勵セシムトス

第五節 「グレシヤム」ノ法則

「グレシヤム」ノ法則トハ貨幣ノ流通ニ關スル一ノ重要ナル法則ニシテ惡貨幣ハ良

貨幣ヲ排去シ良貨幣ハ却テ惡貨幣ヲ排去シ得サルヲ謂フナリ「デレシヤム」ハ「ユリ
 ザベス」時代ノ英國人ニシテ右ニ述ヘタル貨幣流通ノ法則ヲ知リ以テ當時ノ幣
 制改革ヲ成效セシメタルカ故ニ後世此法則ニ冠スルニ氏ノ名ヲ以テセルナリ」
 此法則ハ一見頗ル條理ニ反スルカ如シ然レトモ貨幣カ他ノ財貨ト異ナルノ點
 アルヲ知ラハ此法則ノ行ハルルハ毫モ怪シムニ足ラサルナリ即チ貨幣ハ食物、
 衣服等ノ如ク直接ニ欲望ヲ満足セシムルモノニ非ス主トシテ支拂ノ用ニ供ス
 ルモノナルカ故ニ外形相同シキトキハ世人ハ精密ニ其品位、重量ヲ検査セスシ
 テ授受スルモノナリ然レトモ地金商兩替商、金細工師等ニ至リテハ細ニ其差異
 ヲ探究シ重量品位ノ同シカラサル貨幣ニシテ同一ノ法定價格ヲ以テ通用スル
 モノアルトキハ品位、重量ノ勝レルモノヲ選擇蒐集シテ或ハ之ヲ熔解シ或ハ之
 ヲ輸出スルカ故ニ良貨幣ハ遂ニ其跡ヲ收メ惡貨幣ノミ流通スルニ至ルナリ
 諸國貨幣制度ノ歴史ヲ見ルニ此法則ノ行ハレタル證據枚舉ニ遑アラズ其一例
 ヲ舉タレハ第十七世紀ノ末ニ當リ英國ニ於テハ流通貨幣ノ磨損甚シク取引上
 不便少カラナリシヲ以テ政府ハ量目ノ十分ナル新貨幣ヲ發行シ租稅等ヲ納ム

人ニシテ親ノ身分ヲ繼續スルコトナシ又自由人トシテ生レタル者ハ生來ノ自
 由人ナリト雖モ一旦奴隸ト爲リタルトキ自由ノ恢復ニ因リ生來自由人ノ資格
 ヲ還取スルヲ得ス唯上說セル「ポストリシニオム」場合ハ此規則ニ從ハサルヲ
 (甲) 解放奴隸ノ身分ニ在リシモ既ニ自由ヲ有スル者ヲ謂フ而シテ此解
 放奴隸トハ嘗テ奴隸ノ身分ニ在リシモノ自由ヲ有スル者ヲ謂フ而シテ此解
 放奴隸ナル身分ハ解放ニ因リテ生スルヲ規則トス

奴隸解放ノ方法ハ儀式的ナルモノアリ又儀式的ナラサルアリ而シテ法律カ制
 定セル條件ニ從ヒテ形式ノ解放ヲ得タル者ハ自由人ト爲リ公民タルヲ得此儀
 式的解放ノ古昔ヨリ應用セラレタルモノヲ三トス曰ク
 (一) 戸籍簿ニ依ル解放
 (二) 棍箠ヲ用フル解放
 (三) 遺言ニ因ル解放

是ナリ當初ニ於テハ此等ノ式ニ從ヒ解放セントスル者ハ市民法ニ從ヒ所有權

羅馬法 人 自由 生來ノ自由人及ヒ解放奴

ヲ有シ讓與スルノ能力アルトキハ解放奴ヲシテ直ニ公民タルコトヲ得セシメ他ニ必要ナル事故ナカリシカ帝政時代ノ法律ハ更ニ條件ヲ増加セリ以上ノ條件中ニ就キ缺クルモノアルトキハ解放ハ十分其效力ヲ奏スルコト能ハス解放奴ハ一種特別ノ地位ニ置カル名ハ自由人ナリト雖モ公民ニ非スシテ其身分ノ種類ニ從ヒ多少ノ制限ヲ受タルコト後文之ヲ見ルカ如シ

奴隸解放ノ形式ニ於テ羅馬人ハ其儀式ニ重キヲ置キタルハ偶然ニ非ス蓋シ奴隸解放ノ結果トシテ新ニ公民ヲ市中ニ加フルヲ以テ生スル所ノ影響又輕カラズ是ヲ以テ公權ノ解放行爲カ認承ヲ請求セルモノナリ

- (一) 戸籍帳ニ依ル解放 此方法ハ最モ古昔ヨリ傳來セルモノニシテ戸籍簿ニ公民トシテ奴隸ノ名ヲ記入スルニ在リ然ルトキハ「サンソル」(Censu)ナル法官ハ國家ノ名義ヲ以テ之ヲ公認ス然レトモ戸籍登記ハ每五年一回唯リ羅馬ニ於テノミ之ヲ舉行セシヲ以テ戸籍登記ノ時節外或ハ羅馬外ニ於テ解放セントスル者ノ爲メ更ニ他ノ方法ヲ求メサルヘカラサルニ至レリ
- (二) 棍箸ヲ以テスル解放 此方式ハ奴隸カ主人ニ對シ自由ヲ請求スル訴訟ノ

擬似ナリ奴隸及ヒ主人ハ法官ノ前ニ出頭シ而シテ奴隸ハ訴訟スルノ能力ナキヲ以テ之ヲ代表スル第三ノ自由人 (assessor Libertatis) ヲリテ棍箸 (Virgula) ヲ以テ奴隸ニ觸レ其自由ヲ請求ス而シテ主人ハ此請求ニ對シ抗疏セス單ニ沈黙シ或ハ請求ノ正當ナルヲ確言ス然ルトキハ裁判官ハ之ヲ以テ裁判上自白ト爲シ奴隸ノ自由ヲ宣告ス此方式ハ何時ト雖モ法官所在ノ地ニ實行シ得ヘキカ故ニ戸籍帳ニ依ル解放ヨリモ遙ニ便ナリトス

(三) 遺言ニ因ル解放 以上ノ方法ハ主人ノ生存中ニ爲ス解放ナルカ此第三ノ方式ハ主人ノ遺言ヨリ生スル結果即チ其死後ニ於テ效力ヲ生スル解放ニシテ公民ノ遺言ヲ以テ財産ヲ處分スルコトヲ許セル時代即チ十二銅版法ノ頃ヨリ起リシモノナルヘシ而シテ主人ハ遺言ヲ以テ直接ニ解放スルトキハ解放奴ノ保主 (Patrons) ハ死者ナリ若シ之ニ異ナリ相續者ニ命シ或ハ信託 (Fideicommissum) 因リ相續者ニ依託シ解放セシムルトキモ法律上ノ解放ヲ行ラズ相續者ナルカ故ニ之ヲ以テ保主ト爲ス

以上ノ方法ノ中戸籍帳ヲ以テスル解放ハ「ヴェスパスシアニウス」(Vespasianus) 帝ノ時戸

籍調査ノ廢止ト共ニ消滅セシカ他ノ方法ハ「ジュステチアン」帝ノ世ニ至ルモ仍
 ホ存在セリ但其形式ハ簡略セラレ棍箸ノ方式ハ單ニ法官ノ前ニ於ケル明言ト
 爲リタリ又「コンスタンチヌス」帝ノ時ヨリ寺院ニ於ケル解放ヲ認メタリ
 「ジュステチアン」帝ハ私人ノ間ニ於テ爲シタル解放ヲ認メ例ヘハ手翰ニ由リ奴隸
 ノ稱ヲ除去シタルトキ又ハ公正文書中奴隸ニ付スルニ「兒子」ノ名ヲ以テシタル
 トキ又ハ婦女ノ奴隸ヲ自由人ニ結婚セシメ嫁資ヲ付與シタルトキ或ハ主人カ
 己ノ葬式ノ際奴隸ニ自由ヲ象レル帽ヲ戴キ先驅スルコトヲ命シタルトキ等ニ
 ハ同シク自由ヲ得ルコトヲ許シタリ
 古來奴隸解放ニ對シテハ他ニ法律上ノ妨害ヲ加ヘ
 奴隸解放ニ加ヘタル制限 古來奴隸解放ニ對シテハ他ニ法律上ノ妨害ヲ加ヘ
 ス新ニ公民ノ列ニ加ヘラレタル前日ノ奴隸ニ向ヒテ取レル警戒ハ單ニ其政治
 的地位ヲ劣等ナラシムルニ止メタリシカ共和時代ノ末帝政ノ初ニ及ヒテハ奴
 隸ノ數著シク増加シ隨テ解放ノ數モ亦著大ト爲リタリ而シテ一旦奴隸ナル卑
 劣ノ身分ニ陥リタルヨリ精神ノ腐敗其極ニ達シタル舊奴隸ハ詳ヲ爲シテ歷年
 ノ内亂ニ因リ相屠殺シ僅ニ遺殘シタル剛毅勤勞ノ性質ヲ具ヘタル固有ノ羅馬

人ヲ壓制セントスルノ形勢ニ至ラントセシヨリ立法者ハ之ヲ防止センカ爲メ
 一方ニハ羅馬公民ノ缺亡ヲ補ハンカ爲メ解放ヲ容易ニスルト同時ニ又一方ニ
 ハ完全ナル自由ヲ與ヘ公民ト爲スコトヲ困難ナラシメ「オーギュスト」帝ノ代ニ
 當リ二箇ノ法律ハ解放ニ制限ヲ加ヘタリ一ヲ「クリア」センシア法(Lex Aelia Sentia)
 ト爲シ「プニリア」カニニア法(Lex Fufia Caninia)ト爲ス
 加之此法律ハ債務ヲ辨償スルコト能ハサル負債者カ債權者ニ損失ヲ與ヘン爲
 メ故ラニ奴隸ヲ解放シタルトキハ之ヲ以テ無効ト爲シ又二十年以下ノ主人ハ
 正當ナル理由ヲ有シ五人ノ元老員及ヒ五人ノ騎士ヨリ成リタル會議ニ於テ認
 許セラルルニ非サレハ奴隸ヲ解放スルヲ得ザラシム
 「プニリア」カニニア法ハ遺言ニ因ル解放ニ關シ規定ヲ設ケ主人カ死亡後ノ過大
 ノ寬裕ナル措置ニ向ヒテ制限ヲ加ヘタリ此法ニ依レハ奴隸ノ數ニ從ヒ解放ノ
 比例ヲ變スルモ決シテ百以外ニ上ルコト能ハス若シ制限ノ數ヲ超過スルトキ
 ハ遺言上記載ノ順序ヲ以テ之ヲ算シ制限數外ハ無効ト爲ス若シ遺言者ニシテ
 解放スヘキ奴隸ノ名ヲ圓形ニ書シ首尾ナカラシメ裁判官ヲシテ順序ヲ立ツル

コト能ハサラシメタルトキハ一切ノ解放ヲ以テ無効ト爲ス

(乙) 解放奴ノ法律上ノ地位 解放奴ノ身分ヨリ之ヲ脱カシ

今甲者即チ公民タル解放奴ノ身分ヨリ之ヲ脱カシ

(イ) 羅馬公民タル解放奴 解放奴ニシテ公民ノ資格ヲ得タル者ハ名目上ニ於テハ他ノ公民ニ同シキモ實際其社會ニ對スル地位及ヒ舊主人ニ對スル地位共ニ特異ニシテ生來ノ自由人ニ比シ一種劣等ノ地位ニ在リ即チ解放奴ハ社會ニ於テハ官吏ト爲ルコトヲ得ス市ノ名譽職ニ就任スルコトヲ得ス投票權ニ於テハ有名無實ニシテ解放奴ノ全體ハ僅ニ一區ヲ成ス

「オーギニステヌス帝ノ世ニ至ルマテハ兵役ニ就クヲ禁シ又生來ノ自由人 (Ingenui) ト結婚スルヲ得サリキ刑法上ニ於テ卑賤人種 (Humiles homines) 及ヒ名譽人種 (Dignit. homines) ニ從ヒ嚴寛ヲ異ニスル場合ハ解放奴ハ甲者ノ中ニ算セラレ證人トシテ訊問ノ際拷問ニ付セザルヲ得解放奴ノ資格ハ遺傳スルニ非スト雖モ輿論ハ其高尚ナル地位ニ就クヲ許サス例ヘハ羅馬曆四百四十二年「アピニウス、タロー

「アピニウス」(Appius Claudius)ハ都察官(Censor)カ元老院議員ニ一解放奴ノ孫ヲ登任セシメ世ノ攻撃ヲ受ケタルコトアリ

解放奴ノ地位ノ最モ常人ニ比シテ劣リタルハ其舊主トノ關係ニ存シ主權 (Ius patronatus) ニ服從セラル此主權ニ依リ舊主ハ解放奴ニ對シ相續權後見權ヲ有シ又解放奴ハ常ニ尊敬ノ義務アリ法官ノ許可ナクシテ舊主ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコト能ハス加之其許可ヲ得ルモ汚辱ヲ加フヘキ訴訟ヲ爲スヲ得ヌ又解放奴ハ舊主ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負フ

解放奴カ此劣等ノ地位ヨリ出ラントスルニハ皇帝ヨリ「ジュスオーレオローム、アウ「コローム」(Usurforum annuatum)又ハ「ハスチチエシオナタリオム」(Restitutio natalium)ノ特典ヲ得ルニ在リ甲ハ金指環ヲ用フルノ權ニシテ最初ハ唯リ騎士ノミナリシカ後ニハ生來ノ自由人タルヲ示セルモノナリ乙ハ全ク其生産ノ汚斑ヲ消滅セシメ生來自由ノ人ト爲ス此兩特典ハ解放奴ニ官職ニ就クヲ得セシメ總テノ榮譽ヲ帶フルコトヲ許サシムルモ唯乙權ノミ舊主トノ關係ヲモ消失セシムルヲ以テ之ヲ請フ者ハ豫メ舊主ノ承諾ヲ要ス

(ロ) 公民ニ非ナル解放奴(解放羅馬人) [liberi latini] 形式ニ從ヒテ解放セラレタル奴隸ハ公民ト爲ルモ形式ニ反シテ解放セラレタル奴隸ハ法律上其地位ヲ變スルコト能ハサルノ理ナルカ實際ニ於テハ自由ヲ享有シ一種不定ノ狀態ヲ存セシメテ以テ「ジュニア」ノル「バナ」[Junia Norbana] 法ハ殖民地ノ羅馬人ト比シテ其地位ヲ定メ更ニ一層下等ノ者ナシ一切ノ公權ヲ付與セス又私權上ニ於テモ著シク之ヲ制限セリ然レトモ法律ノ之ヲ待ツヤ寛大ニシテ皇帝ノ勅令兵役其他ノ方法ニ依リ羅馬公民ノ稱號ヲ得ルコトヲ容易ナラシメタリ

(ハ) 「デチナシイ」[Deditici] 解放奴 「ジリヤ」[Sensitici] 「ゲリア」[Gelia Senes] 法ハ奴隸中汚辱ノ刑ニ處セラレタル者ヲシテ解放後羅馬公民ノ稱號ヲ得ルヲ禁シ其地位ヲ制定シテ敗軍後隨意ニ離散スルコトヲ許シタル外國人ニ擬シ以上ノ解放奴ヨリモ更ニ劣等ノ者ト爲シ羅馬及ヒ其周圍百マイル(二マイルハ千步ニ當ル)内ニ住スルヲ禁シ之ヲ犯ストキハ捕ヘテ奴隸ト爲シ復タ解放スルヲ得サルノ條件ヲ以テ賣ラル法律上ニハ通民法ノ權利ヲ享有スルモ所屬ノ市ナク遺言スルノ權ナク又遺言ニ因リ贈與ヲ受クルノ權ナク終身公民ト爲ルコト能ハス

以上兩種ノ解放奴ハ「ジュニチニア」帝ノ時代ニハ事實上殆ト存在セサリシヲ以テ「ジュニチニア」帝ハ法律上此事實ヲ認定シ三種ノ區別ヲ廢シテ單一ニ種ト爲シタルヨリ爾後ノ解放奴ハ總テ公民ト爲リタリ

第三節 農奴 (Colonus)

農奴トハ土地ニ定著シテ分離スルコト能ハサル者ニシテ真正ナル奴隸ニ非ス又純粹ナル自由人ニ非ス略ホ其中間ニ立ツモノナリ農奴ナルモノハ教科時代ニ在リテハ未ダ存在セサリシカ羅馬帝國ノ末ニ及ヒ始メテ出現シ來リタリ其主タル原因ハ一ニハ自由人ハ復タ土地ノ耕作ヲ以テ事トセス奴隸ヲ以テ之ニ充テタルニ在リ二ニハ貧富兩者ノ懸隔漸ク甚シク貧者ハ富者ノ略奪ヲ制スルニ途ナク自ラ土地ノ所有權ヲ棄テ農奴ノ稱ヲ以テ豪族ノ下ニ立チ其保護ヲ得ントシタルニ在リ三ニハ羅馬皇帝ハ羅馬ニ同盟ヲ乞ヒタル野蠻人ニ農奴ノ名ヲ附シ以テ遠隔セル地方ノ土地ヲ與ヘ其漂寓ノ習俗ヲ脱セシメ復タ羅馬帝國ニ寇セサラシメント圖リタルニ在リ是ヲ以テ之ヲ推セハ農奴ノ制ハ明カニ羅馬

馬帝國ノ制度、武力ノ傾頹ヲ表示スルモノト謂フヘシトハ、
 農奴ノ身分ハ遺傳ニシテ父母若クハ母ノ農奴ナルトキハ子モ亦農奴タリ其他
 契約及ヒ三十年ノ時効ニ因リ農奴ト爲ル又農奴ハ解放、僧正ノ位ニ任セラレタ
 ルトキ及ヒ時効ニ因リ自由人ト爲ルモノナリ然レトモ「ジュスタニアシ」帝以降ハ
 時効ヲ以テ無効ト爲シタリ
 農奴ハ奴隸ニ異ナリテ結婚スルノ權アリ又所有權ヲ有シ財産ヲ讓與スルヲ得
 然レトモ一定ノ土地ニ繫カレ之ヲ耕作シテ土地所有者ニ年貢ヲ納レサルヘカ
 ラス此年貢ハ或ハ金錢ヲ以テシ或ハ生産物ヲ以テス農奴ハ其土地ヲ棄テテ逃
 走スルヲ得ス又強ヒテ土地ヨリ分離セララルコトナシ若シ所有主ニシテ土地
 ヲ讓與スルトキハ農奴ハ土地附屬トシテ同シク其轉遷ニ從フ此土地ト連繫シ
 テ離ルヘカラサル關係ハ農奴ノ特別ナル性質ナルヲ以テ又土地奴隸 (*Dei Servi*)
 呼ハレタリ

第二章 市權 (公民非公民 *Cives, Noncives*)

羅馬ノ初ニ於テハ公民タルヤ非公民タルヤハ法律上重大ナル關係ヲ有シ唯リ
 公民ノミ市權ヲ享有シ他ハ毫モ之ヲ有セザリシカ此區畫ハ漸次減少シ非公民
 ト雖モ市權ヨリ生スル特權ヲ分受シ帝政時ノ中頃ニ及ヒ非公民ナル者ハ遂ニ
 消失スルニ至レリ

第一節 公民 (*Cives*)

公民ノ特權ハ政治的ナルアリ市民的ナルアリ政治的特權ハ(一)投票權 (*Jus suffra-*
gi)ニシテ即チ民會 (*Comitia*)ノ議事ニ於テ投票スルノ權ナリ(二)名譽權 (*Jus hono-*
rum)即チ官職ニ任セララルノ權ナリ其他宗教上ノ權 (*Jus sacerum*)トシテ公祭 (*Sa-*
crum publicum)ニ與リ又私祭 (*Sacrum private*)ヲ有スルノ權アリ
 市民法ノ特權トシテ羅馬公民ハ特別ナル權利ヲ有ス即チ市民法ニ從ヒ結婚ス
 ルノ權 (*Jus conubii*)及ヒ市民法ノ方式ニ從ヒ財産ヲ獲得シ又ハ讓與スルノ權即
 チ商事權 (*Jus commercii*)ヲ有ス
 總テノ公民ハ常ニ同一ノ狀態ニ立チシニ非ス共和時代ノ初ニハ貴族及ヒ平民

間ノ懸隔ハ較著ニシテ平民ハ名譽權 (Dishonorum) ヲ有ケス又貴族トノ結婚權 (Comitatus) ナカリキ又帝政時代ヨリ元老及ヒ其家族ヲ以テ別ニ一ノ種族ト爲シ最上階級 (Patricii) ト名ケ武人ト等シク私權上ニ付キ二三ノ特典ヲ與ヘタリ

公民ノ資格ハ生産時或ハ出産後ニ於テ之ヲ得ルモノナリ正婚 (Iustae nuptiae) ニリ生レタル子ハ懐胎時ノ父ノ身分ヲ追ヒ正婚外ニハ分娩時ノ母ノ身分ニ從フ故ニ母カ羅馬人ナレハ子ハ公民タリ然レトモ「テンシヤ」 (Tentia) 法ハ此原則ヲ變シ子ハ最悪身分ヲ取ルト爲シ父カ非公民ナレハ母カ羅馬人ナルモ公民タラサルヲ決セリ然レトモ或ハ羅馬人民ノ決議ニ依リ或ハ法官ノ命令ニ依リ或ハ皇帝ノ勅令ニ依リ公民ノ資格ヲ得ルコトヲ得タリ

公民ノ資格ハ自由ヲ失ハシムル總テノ事故ニ因リ之ヲ失フモノトス其他外國ノ市權ヲ得ルニ因リ又ハ或刑罰例ヘハ水火ノ禁止及ヒ流刑ニ因リ之ヲ失フ水火ノ禁止トハ一ノ特異ナル罪ニシテ市ノ人民トノ間一切ノ交際ヲ禁シ以テ間接ニ國外ニ行カサルヲ得サラシムルモノナリ

第二節 非公民 (Non-civis)

當初ニ於テ公民ニ非サル者ヲ呼フニ「ホステス」 (Hostis) ナル字ヲ以テシ市民法ヨリ生スル一切ノ利益ヲ拒否セシモ漸ク時代ノ降ルニ及ヒ「ホステス」ナル字ヲ以テ羅馬ノ敵ヲ指シ復タ外國人ヲ意味セサルニ至レリ而シテ羅馬ノ臣屬又ハ同盟國トシテ遇サレタル外國人ハ之ヲ呼フニ「ペレグリン」 (Peregrinus) ナル字ヲ以テシ以テ「ホステス」ナル字ニ代ヘタリ

共和ノ末世ニ近ツキ版圖ノ擴張及ヒ政治的ノ必要ヨリ生スル結果トシテ非公民ノ地位ハ漸次修正サレ公民ノ名ニ附屬セル公私權ノ一部ヲ認與シタリ而シテ公民及ヒ「ペレグリン」 (Peregrinus) ノ名ヲ以テ指圖サレタル外國人トノ兩者間ニ存スル諸種ノ階級ハ帝政時代ニ當リ遂ニ全ク廢止セラレ悉ク公民ト爲リタリ今此中間ノ非公民諸種ヲ列舉センニ

(甲) 外邦人 (Peregrini)

外邦人トハ羅馬ノ市或ハ殖民地ニ非サル市ニ屬スルモノニシテ其固有ノ市法

ヲ有シ又羅馬人トノ關係ニ於テハ通民法ノ適用ヲ得ルモノナリ然レトモ外邦人中別ニ劣等ナル者アリ「デヂチシー」(Deditio)ト呼ハレ其固有ノ市法ヲ剝奪セラレ總テノ關係ニ於テ通民法ヲノミ適用スルコトヲ得

(乙) 古羅甸人 (Latini veteres)

羅甸人トハ羅甸同盟ヲ成シタル市ノ人民ニシテ私權ノ全部及ヒ公權ノ一部ヲ享有ス羅甸人ハ古代ニ於テ同盟シ羅馬人ニ抗爭セシカ戰敗後其權ノ幾部ヲ剝奪セラレタルモ本來ハ羅馬人ト同一ノ言語習慣ヲ有スル人民ニシテ容易ニ公民ト爲ルコトヲ得タリ

殖民羅甸人 (Latini colonarii)トハ羅馬人ノ殖民地ヲ成シタルモノニシテ羅馬ニ於テハ政治上ノ權利ナク結婚權ナク唯リ商事權ヲ有スルノミ然レトモ又容易ニ公民ト爲ルコトヲ得タリ

此ノ如ク非公民ニハ數等ノ區別アリシカ羅馬六百六十四年ジュリア法 (Lex Julia)ハ伊太利全國ヲ通シ其人民ヲ認メテ公民ト爲シ又帝政時ニ及ヒ或ハ一市或ハ一市ノ一部ニ公民ノ地位ヲ與ヘタリシカ遂ニ「カラカラ」(Carracalla)帝ニ至リ羅馬帝

國ノ人民ヲ通シテ皆公民ト爲シタルヨリ往昔ノ如ク羅馬公民以外ニハ毫モ公民權ヲ認メザル敵國外人 (Barbari) アルノミ

第三章 家族權 他權者

一家フアミリア (Familia)トハ相互間親族ノ關係ヲ有スル人ヨリ成リタル集合ニシテ其組織ニ於テハ時代及ヒ國ノ習俗ニ從ヒ著シキ差異アリ現今歐羅巴諸國ニ行ハルルハ一夫一婦ノ式ニシテ其レヨリ生スル子孫ハ父母ノ親族ニ對シ同一ノ關係ヲ生スルモ之ニ反シテ羅馬ノ家族制度ハ所謂族長制度ニシテ子ハ父ノ親族ニ對シテノミ親族ノ關係ヲ有シ決シテ母ノ親族ニ對シテ之ヲ有セズ』一家ヲ總括シ之カ首長タル者之ヲ家父 (Paterfamilias)ト呼ビ各家必ス一人ヲ有家父ハ所謂自權者 (Sui iuris)ナルモノニシテ其支配ノ下ニ立ツ者ヲ他權者 (Aliene iuris)ト謂フ自權者ハ其年齡ノ老幼ニ拘ハラヌ家父或ハ家母 (Materfamilias)ト呼ブモ父又ハ母ナル意味ハ殆ト全ク其稱號ニ關係ナクシテ單ニ一ノ資產ノ所有者タルト其權力ノ下ニ他ノ他權者ヲ有スルヲ得ルコトヲ謂フモノニシテ結婚年

胎前且生産前既ニ家父ノ稱ヲ冠スルコトヲ得タリ
 他權者ニハ數種アリ其權力ハ(一)奴隸ノ上ニ主人ノ有スル主人權(Potestas dominica)
 (二)子ノ上ニ於ケル父ノ父權(Patria potestas) (三)婦人ノ上ニ於ケル夫又ハ第三者ノ
 有スル手權(Manus) (四)讓與サレタルモノ自由人上ニ於ケル他ノ自由人ノ權(Ma-
 nojus) 是ナリ而シテ第二第三ノ權力ハ唯リ男子ノミ所有スルヲ得ヘク他ハ女
 子モ亦之ヲ有スルヲ得ヘシ
 奴隸上ニ於ケル主人權ハ既ニ吾人ノ學ヒタル所ナルヲ以テ是ヨリ他ノ三種ヲ
 述ヘントス

第一節 家父權 (Patria potestas)

當初ニ於ケル父權ノ性質ハ甚ク嚴酷ナルモノニシテ家父ハ其子ノ身上ニ於テ
 死生ノ權ヲ有シ之ヲ毆打シ之ヲ賣リ又ハ之ヲ殺スコトヲ得タリ家父ノ決スル
 所ハ毫モ他ノ隊ヲ容ルルヲ許サスシテ家父ハ恰モ專橫ナル最高判官ノ地位ニ
 在リ隨テ父權ノ下ニ立テタル家子(Filia familiae)ハ他ノ家人ニ對シテハ更ニ權力

ヲ有セス家子ノ子孫ノ上ニ於ケル父權及ヒ其配偶者ノ上ニ於ケル夫權(Manus)
 等皆家父ノ手中ニ集合セラレ又財産ノ問題ニ於テハ家子ハ特別ナル資産ヲ有
 スルコト能ハス其取得スル所ノモノハ總テ家父ニ屬シ家父ノ資産ヲ増加ス
 父權ハ市民法ニ屬スルヲ以テ同時代ノ人民中類似ノ制度ヲ有スルモノアリシ
 モ羅馬ノ裁判所ハ唯リ羅馬人ニノミ父權ニ屬スル規則ヲ應用シタリ又父權ハ
 家父ノ利益及ヒ公共ノ利益ヲ目的トシテ組織セラレタルモノニシテ一家ノ組
 織ヲ嚴格ナラシメ法律上ニ於テ家族ヲ集結シテ唯一ノモノト看做シ其首長ニ
 付與スルニ無上ノ權力ヲ以テシ羅馬人ヲシテ他日國家組織ニ於テ逢フヘキ威
 權ニ服スルニ馴レシメ共和ノ嚴肅ナル規律ヲ遵奉セシメントスルニ在リ此制
 度ハ實ニ羅馬人カ堅忍ノ性質ヲ形成シ遂ニ羅馬ノ盛大ヲ致シタル原因ノ主タ
 ルモノナリ
 家父ハ私祭ノ首トシ家族一切ノ財産ヲ包括シテ其所有權ヲ握リ又家族ノ判官
 タリ元來家父權ノ組織ハ更ニ家子ノ保護ヲ以テ算中ニ置カサルヲ以テ第一ニ
 家子ハ縱令成年ヲ超ニ加之老年ニ至ルモ家父ニシテ存在センカ父權ノ絆約ヲ

脱シテ自ラ家父ト爲リ或ハ別ニ財産ヲ作リ之ヲ管理スルコト能ハス唯父權ヲ終結ヲ告タルハ通常父ノ死亡アルノミ第二ニハ父權ハ決シテ婦人ノ之ヲ執ルヲ許サス父ノ死亡後或ハ無能力ニ陥リタル後ト雖モ母ニ轉歸スルコトナシ第三ニハ獨リ一家族ノ頂上ニ位セル最高男子ハ父權ヲ執ルカ故ニ祖父曾祖父ニシテ家父タルトキハ孫玄孫等皆其下ニ屬スルモノトス

家父權ノ嚴格ナル此ノ如シト雖モ家子ノ地位ハ奴隸ニ異ナリ主人ニ屬スルモノニ非ス法律上認メテ人ト爲シ而モ自由人^{liber homo}生來ノ自由人トシ公民トシテ公職ニ就クヲ得又一家ノ内ニ在リテハ父ノ司ル私祭(Sacra Privata)ニ分與ス畢竟法律ハ子ノ地位ヲ以テ賤劣ナラシムルニ非ス唯子ヲ以テ父ト同一體ト爲サント欲セシモノナリ

原則ハ右ノ如シト雖モ生殺與奪ノ權ハ父ノ手中ニ在リ十二銅版法ハ子ニシテ三度賣ラルルトキハ父權ハ消滅スルモノト爲シタルヲ以テ父權ノ濫用ニ加ヘタル制限タリシカ實際ニ於テハ風俗ノ嚴正ナルト又センソール官ノ嚴密ナル監督トニ由リ著大ナル弊失ヲ感セザリシモ世代ヲ降ルニ隨ヒ此父權ノ規正者

タル兩者ハ消失シ遂ニ法文ヲ以テ父權ヲ削滅セサルヘカラサルニ至レリ

教科時代ニ至リ家子ニ對スル生殺ノ權ハ漸ク削滅セラレテ遂ニ全ク消失シ「コンスタンチニウス」帝ニ至リ勅令ヲ發シ其子ヲ殺ス者ハ其父ヲ殺スト等シキ罪ヲ以テ論セラルヘク將來子ニ罪アルトキハ一般ノ法ニ從ヒ裁判官ニ付與スヘキコトヲ決セリ「ジュスタニア」帝ニ至リ棄テラレタル子ハ直チニ自權者ト爲リ又父ニ由リ賣淫サレタル女ハ父權ヨリ脱スルコトヲ決セリ然レトモ子ヲ賣ルコトハ教科時代ニハ猶ホ存在セシカ「テラクレチア」ニウス帝ハ之ヲ禁シ「コンスタンチニウス」帝モ亦此禁ヲ反復シ唯兩親ノ極メテ貧困ナルトキハ初生兒ニ限リ之ヲ賣ルコトヲ許セリ

財産ニ關シテハ子ノ得ル所ノモノハ家父ノ資産ヲ増加シ又契約ニ因リテ家父ニ權利ヲ得セシムルモ契約ニ因リテ家父ニ義務ヲ負ハシムルコト能ハス實際ニ於テ家父ハ子ノ勞力ニ因リ得タルモノハ子ノ管理享有スルニ任セ他日資産ヲ相續スルノ日ニ當リ之ヲ管理スルノ地歩ヲ作ラシメタルモ家父ハ又隨意ニ之ヲ剝奪スルノ權ヲ有セリ此家子ノ利得ハ之ヲ名ケテ「ペキューリウム」(Peculium)

ト謂フ
 家子ハ奴隸ノ地位ニ似タルアルモ奴隸ハ契約ニ因リ民法上ノ義務ヲ生ズルヲ得ス單ニ自然義務ヲ負フノミ之ニ反シテ家子ハ自ラ民法上ノ義務ヲ負フ又犯罪ニ在リテハ家子、奴隸共ニ民法上ノ義務ヲ生セシムルヲ得其他家子ハ或制限内ニ於テ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ爲スヲ得ルモ奴隸ハ人格ナキヲ以テ之ヲ得ス

家父權ハ教科時代ニ至リテハ著シク減縮セラレ財産ニ關シテモ家子貯金(Pecunia)ノ理發達スルニ隨ヒ益、其然ルヲ見ル此貯金ニ數種アリ家父カ一部ノ資産ヲ割キテ子ニ管理セシメ之ヨリ増殖シ得タル財産ニハ與奪ノ權ヲ有シタリ之ヲ「ペキリウム、プロフェクシウム」(Pecuniam profectum)ト名ク其他ノ財産ニシテ家子カ真正ノ所有權ヲ享受スルモノニ數種アリ

(一) 軍功貯金 (Pecuniam castrensium)

是レ特ニ軍人ノ爲メニ創立セル法律ニ起源セルモノニシテ家父ノ子カ得タル財産上ニ有セル權力ニ向ヒテ一打撃ヲ加ヘ將來家子ノ貯金ヲシテ分立セシメ

タル嚆矢ナリ羅馬帝「オーキヌスチユス」ハ羅馬分爭以來自己ノ麾下ニ屬シ争鬪セル者ヲ賞センカ爲メ家子ニシテ軍役ニ於テ得タル一切ノ財産ヲ以テ軍功貯金ト爲シ法律上及ヒ事實上家父ノ有セル資産ヨリ分立セシメ家子ノ特有財産トシ家子ハ遺言ニ因リテモ之ヲ處分スルノ權ヲ與ヘタリ此新規則ハ其後數代ノ皇帝又之ヲ確認シ遂ニ軍功貯金ハ家子ノ特別ナル資産トシテ家子ハ之ニ對シ家父ノ權利ヲ享有スルニ至レリ故ニ家子ハ其軍功貯金ノ一部又ハ全部ヲ讓與シ此財産ヲ以テ義務ヲ契約シ之ニ關スル訴訟ハ獨立シテ之ヲ爲スコトヲ得タリ唯家子ノ死スル時軍功貯金ニ關シ遺言ニ因リ處分セザリシトキハ家父ハ已カ放任シテ管理セシメタル貯金ノ如ク回收セシカ「ペニチニア」帝ハ更ニ此慣習ヲ變シ家子ノ無遺言ニシテ死シタルトキト雖モ軍功貯金ハ真正ノ相續トシテ家子ノ相續人ニ移轉スルコトヲ決シタリ

(二) 軍軍功貯金 (Pecuniam quasi castrensium)

此貯金ハ「コンスタンチヌス」帝ノ創メテ定メタルモノニシテ宮廷ニ於テ官職ヲ有シタル家子カ其役務ヨリ得タル貯金ヲ謂フ其後辯護士、僧侶其他總テ官吏ト

シテ得タル財産ヲ以テ此中ニ加ヘタリ家子カ此貯金上ニ於ケル權利ハ前ノ軍功貯金ニ等シキヲ以テ準軍功貯金ノ名アリ

(三) 「ペキリオム」アドウミンチオム(Poenum adventitium)

此貯金ハ其由來ノ何タルヲ問ハス以上二種ノ貯金ニ屬セサル一切ノ財産ニシテ唯リ軍人官吏辯護士等ノミナラス總テ家子タル者ハ男女ヲ分タス之ヲ有スルヲ得此財産ノ所有權ハ家子ニ屬スルモ遺言ニ因リ處分スルヲ得ス家父ハ此貯金ヲ構成スル財産ヲ管理シ收實權ヲ有ス故ニ此貯金ニ於テハ以上二種ノ貯金ニ比シテハ家子ノ享有スル權利ハ狭小ナリキ

第二節 家父權ノ源泉

第一 正當婚姻 (Iustae nuptiae)

父權ノ構成ハ羅馬ニ於ケル家族制度ノ基礎ナルコト既ニ上文説クカ如シ而シテ父權ノ發生スル重ナル源泉ハ結婚ニ在リ古昔時代ニ在リテハ結婚ハ男女兩性ノ生存上ニ分離スヘカラサル共同體ヲ成セル結合ナリ「モヂステニユス」カ下

セル定義ニ依ルニ結婚ハ異性ノ二人ヨリ成ル合一ニシテ配偶者間ニハ會社ノ一種ヲ組成シ女ハ男ノ有セル社會上ノ地位稱號ヲ分チテ其住居ヲ取り又私祭ニ分與ス是ヲ以テ推セハ所謂正當結婚ハ市民法ニシテ羅馬法カ認メタル他ノ男女ノ結合ハ市民法ニ於ケル結果ヲ生スルヲ得ス唯リ此正當婚姻ノミ羅馬人ノ結婚トシテ之ニ附屬スル權利ヲ生スルヲ得ヘシ

古昔ニ於テハ羅馬人ハ結婚ニ先シ結婚 (Pontia) ヲ約スルヲ常トセリ是レ將來ノ夫婦タル男女及ヒ其家父ノ承諾ヲ以テ結婚ヲ爲スヘキコトヲ約スル契約ニシテ通常口頭ヲ以テシ又約束ノ方式ニ從フコトアリ之ヲ遵守スルト之ニ違反スルトハ全ク自由ニシテ決シテ強制的ニ結婚契約ノ實行ヲ許サス唯正當ノ理由ナクシテ之ヲ破毀スルトキハ賠償ニ終ルヲ常トス
當初ニ於テハ結婚ハ夫權 (Mans) ナル權力ト相聯繫シテ離ルヘカラサリシハ正當結婚 (Iustae nuptiae) ニ於テハ女ハ必ス他ノ權力下ニ落ツルカ爲メナリ若シ夫ニシテ自權者タラハ其夫權ノ下ニ落チ若シ他權者ナラハ其尊屬親ニシテ家父タル者ノ權下ニ落ツルモノナリ此夫權ノ結果トシテ一方ニハ女ハ夫ノ家ニ入り

家子(Filia familiaris)ト爲リ他方ニハ其固有ノ家ニ連續スル宗教上及ヒ民法上ノ關係ハ全ク破壊セラル是ヨリ女ハ己ノ生ム所ノ兒子ト恰モ姉妹ノ如ク夫又ハ其父ノ夫權ノ下ニ立チ其固有ノ財産ハ父權ヲ有スル者ニ屬シ以後自ラ所得スルノ權ヲ失フ

夫權ヲ得セシムル結婚ノ方法ニ三アリ曰ク「コンフアレアシオ」(Confarreatio)曰ク「コンムテシオ」(Coemptio)曰ク「ウジニク」(Ursus)是ナリ

(一)「コンフアレアシオ」(Confarreatio) 此方法ハ貴族間ニノミ應用セラレタルモノニシテ十人ノ立證人ノ前ニ於テ大僧官及ヒ「ジュピター」(神ノ名)ノ僧官カ執行セル莊嚴ナル儀式ニシテ女ハ己ノ生活ヲ以テ夫ノ生活ニ配合セル比喩トシテ手ニ小麦ヲ以テ作レル麵包ノ一片ヲ持ツモノトス

「ウチタル」(Utriusque)「マス」(Mas)キリイニク」(Quirinus)神ノ名ノ僧官タラント欲ス

雜 報

○一罪ト數罪トノ區別ノ標準 一罪ト數罪トノ區別ニ付テハ我大審院ニ於テ屢ク判決セラレタル所ナルカ(三十四年十一月二十六日、同年十二月十四日、三十五年四月十四日、同年十二月八日、三十六年二月二十七日、同年四月二十八日、同年五月十九日判決参照)今回又詳細ニ説明セラレタリ曰ク「一行為カ數箇ノ罪名ニ觸ルルトキハ其行為ノ單一ナルノ點ヨリ一罪ヲ構成スヘキヤ若クハ其所爲カ數箇ノ法律違反ヲ構成スルノ點ヨリ其法律違反ノ數ニ相當スル數箇ノ犯罪ヲ構成スルヤ換言スレバ犯罪ノ單一ナルヤ否ヤハ一ニ所爲ノ單一ナルヤ否ヤニ依リテ定ムヘキヤ若クハ法律違反ノ單一ナリヤ否ヤヲ標準トスヘキヤハ學者間議論ノ一致セザル所ニシテ立法例モ亦タ區區ニ出ツル所ナリ而シテ或ル立法ニ於テハ一所爲カ數箇ノ罪名ニ觸レタル場合ニ付其中ノ尤モ重キ罪名ニ從ヒ處斷スヘキ旨ノ特別規定ヲ設ケ純然タル數罪俱發ノ場合ト區別スルモ我刑法ニハ此點ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケザルヲ以テ其所爲ハ刑法第百條ヲ適用ス

ヘキ數箇ノ犯罪ヲ構成スルヤ若クハ初メヨリ一ノ刑律ヲ適用スヘキ單一ノ犯罪ヲ構成スヘキヤハ專ラ犯罪其モノノ觀念如何ニ依リテ定マルヘキモノトス蓋シ犯罪ハ刑罰ノ制裁ヲ付シタル有責ノ不法行為ナルヲ以テ此點ヨリ觀察スルトキハ行為其モノヲ以テ犯罪ノ基本トシ犯罪ノ單一ナルヤ否ヤハ其行為ノ單一ナルヤ否ヤヲ以テ唯一ノ標準トナスヘキモノト論スルコトヲ得ヘキカ如シ然レトモ法律カ不法行為ヲ爲シタルモノニ對シ犯罪人トシテ刑罰ノ制裁ヲ付スル所以ノモノハ他ナシ其行為カ特殊ノ法益ヲ侵害スルカ爲メニシテ其行為ヲ爲シタル犯人ヲシテ其行為ヨリ生シタル各箇ノ法益ニ對シ其責ニ任セシムルモノニ外ナラス是レ法律カ各箇ノ法益侵害ニ對シ特ニ正條ヲ設ケ之ニ固有ナル刑罰ヲ設ケル所以ニシテ各箇ノ法益侵害ハ實ニ犯罪行為ノ基本的要素ヲ形成スルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ犯罪ノ單一ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ犯人ノ爲シタル法益ノ侵害ノ單一ナルヤ否ヤヲ以テ標準トスヘク犯人ノ所爲カ數箇ノ罪名ニ觸レ又ハ數回同一ノ罪名ニ觸ルルニ於テハ其所爲ノ單一ナルト否トニ論ナク其法律違反ノ數ニ相當スル犯罪ヲ構成スヘキ筋合ナリトス之ヲ

換言スルトキハ犯人カ其所爲ニ因リ法律ニ罰スル結果ヲ惹起シタルトキハ其結果ニ對シ其都度犯人トシテ責任ヲ負フヘク結果毎ニ犯罪成立シ其結果ノ異ナルニ從ヒ犯罪モ亦タ異ナルノ結果ヲ生スルモノトス是レ當院從來ノ判例ニ於テ屢々判示シタル所ニシテ云云ト(大審院明治三十六年(刑)第二六〇九號(刑)二月二十一日第 二刑事部宣告)

○露國ノ戰時禁制品 我國ニ於テ定メタル戰時禁制品ニ付テハ本講義錄第十四號雜報欄ニ於テ既ニ報道シタル所ナルカ露國ニ於テハ左ノ諸品ヲ以テ戰時禁制品トセリト云フ

- 一 各種用兵器及ヒ銃器全部又ハ一部並ニ甲兵
- 二 火器ノ部分品及ヒ彈藥(砲銃彈、信管、銃丸、雷管、火藥包、子盒、火藥、硝石、硫磺等)
- 三 爆發物料及ヒ其部分品(地雷、水雷、火、ダイナマイト、ヒロキシリン)各種爆發物、導器及ヒ地雷ノ爆發ニ必要ナル各種ノ物
- 四 砲兵工作及ヒ砲兵行軍ニ屬スル各種用具(砲車、火藥包、子盒及ヒ彈藥箱、野戰、鑄工、具、野戰、廚器、運送用器具、荷車、浮橋、橋架、鐵線、馬具等)

- 五 軍隊用被服武裝用具、携帶皮行囊劍柄甲裝具、堀濠用具、鼓、陸戰銅鼓、鞍馬具、制服、天幕等
- 六 敵國行船船ニシテ其構造内部ノ裝置又ハ其他ノ指示ニ依リ軍用ノ爲メ
- 三ニ建造セラレタルコト明カニシテ敵港ニ於テ敵國ニ賣渡シ又ハ引渡サル
- ヘキモノ(中立國商船旗ヲ掲クルト否トラ間ハス)
- 七 各種ノ船舶器械及ヒ汽鐘(裝置セサル者及ヒ其部分品)
- 八 各種薪炭石炭(チフタ、火酒)
- 九 電話電信及ヒ鐵道ニ屬スル各種ノ物料
- 十 陸海戰鬪用目的ノ各種物品、並ニ米及ヒ食料品尙ホ軍用ニ供スル目的
- ニノ馬匹、獸獸及ヒ其他ノ動物ニシテ敵ノ費用ヲ以テ又ハ敵ノ注文ニ因リテ
- 輸送セララルモノ

法政大學廣告

○ 專門部

正科生別科生共勉員アリ臨時入學ヲ許ス

專門部生徒ニハ當該學年級講義錄ヲ無代價ニテ頒與ス

○ 高等研究科

臨時入學ヲ許ス

○ 聽講生

臨時入學ヲ許ス

○ 校外生

臨時入學ヲ許ス

○ 特別法講義錄

毎月一回發行月謝金拾五錢

本大學ノ創刊ニ係ル講義錄ニシテ其科目ハ府縣制、郡制、市制、町村制、現行租稅法論、戶籍法、不動產登記法、供託法、非訟事件手續法、人事訴訟手續法、競賣法、特許法、意匠法、商標法、著作權法、公證人規則、執達吏規則トス

○ 法學志林

梅博士每號執筆

毎月一回發行本大學講師其他專門家ノ論說及纂論、質疑ノ解答、寄書、散錄、漫評、判例、雜報、記事等ヲ掲載シ攻法家ノ參考資料トス

三十七年三月

司法部指定
文部省認定

私立法政大學

特別法講義錄

第十二號 (三月三日發行)

每月一回發行
謝金十五錢

市制町村制 法學士松浦鎮次郎

競賣法 法學士吾孫子勝

特許法(完) 法學士杉本貞治郎

執達吏規則 法學士岡八

其他本講義錄ニ掲載スル科目左ノ如シ

○府縣制、郡制(松浦學士) ○現行租稅法論(若規學士) ○戶籍法(完)(島田學士) ○不動産登記法(鈴木學士) ○供託法(塚田學士) ○人事訴訟手續法(完)(松岡學士) ○非訟事件手續法(橫田學士) ○意匠法、商標法(杉本學士) ○著作權法(水野博士) ○公證人規則(山脇學士)

●一號ヨリ取揃費需ニ應ス

三月 法政大學

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可)
每月十圓一日三五八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行

明治三十七年三月八日印刷
明治三十七年三月十一日發行
(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地 萩原敬之

印刷者 東京市牛込區矢來町三番地 小宮山信好

印刷所 東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地 金子活版所

發行所 東京市總町區富士見町六丁目十六番地 司法省 指定 法政大學
(電話番町百七十四番)